



JAPAN HANGGLIDING FEDERATION

JHFレポート

選手権特集号

11・12月号
2003年

社団法人 日本ハンググライディング連盟 発行

<http://jhf.skysports.or.jp/>



須藤彰さんのMPGフライトが公式日本記録に。

8月4日、千葉県須藤彰さんが、モーターパラグライダーの無着陸直線飛行日本記録に挑戦。愛媛県重信町から徳島県鳴門市まで168.46km飛び、みごと記録更新に成功しました。この記録は(財)日本航空協会に公式日本記録として認められ、須藤さんは9月18日に東京都の航空会館で表彰されました。11ページにインタビュー掲載。

写真1:記録飛行にはいろいろな決まりがある。飛行宣言のボードを持って。
写真2:(財)日本航空協会の平沢秀雄副会長から賞状を授与される須藤さん。



山崎勇祐さん・古川正司さんがFAIアワード受賞。

9月20日(空の日)に先だち9月18日に東京都の航空会館で(財)日本航空協会賞の表彰式と国際航空連盟(FAI)アワードの伝達式が行われました。JHFでは、大阪府の山崎勇祐さんがFAIハンググライディング・ディプロマを、青森県古川正司さんがFAIエアスポーツメダルを受賞することが伝達されました。山崎さんは1974年にハンググライディングを始め、数多くのTV番組に出演して社会にスカイスポーツの醍醐味をアピール。また「鳥人間コンテスト」の審判長を27年間つとめ、指導者、大会オーガナイザーとしても活躍。フライトエリアの開発にも力を注ぎ、ハング・パラグライディングの発展に寄与してきました。古川さんは1976年にハンググライディング活動を開始。指導者としてフライヤーを育成し、青森県ハンググライディング連盟の設立当初からその中枢的役割を果たしてきました。また「全国ニューススポーツフェスティバル」などの実行委員をつとめ、ハング・パラグライディングの体験教室を行い普及活動を続けてきました。

写真3:FAI伝達式に出席した山崎勇祐さん、古川正司さん、朝日和博JHF会長(左から)。



選手権は一段落、もうすぐ2003年競技が終了。

ポルトガルでのPG世界選手権、ブラジルでのHG世界選手権、長野県白馬村でのPG日本選手権、そして茨城県八郷町でのリジットHG日本選手権(クラス5)とHG日本選手権(クラス1)。この夏と秋は選手権が続きましたが、それも一段落。2003年のハンググライディングシリーズとSPS(スポーツパラグライダーシリーズ)も終了しました。PGジャパンリーグは、11月22日~24日に徳島県美馬町で開催される「四国三郎ジャパンカップ2003」が最終戦です。選手の皆さん、最後まで安全第一で頑張りましょう!

写真4:PG日本選手権のトップ3。左から只野、扇澤、川地各選手。
写真5:初めてのクラス5日本選手権トップ3。左から佐々木、板垣、境各選手。



JHFは新団体設立に反対します。(詳しくは12ページをご覧ください。)



JHFレポートは、スポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています。

JHFレポート11・12月号 選手権特集号

もくじ

P2-ハンググライディング世界選手権	P5-全日本学生PG選手権	P6-パラグライディング日本選手権 in 白馬
P8-リジットハンググライダー日本選手権 in Ibaraki	P9-チャンピオン決定!	P10-安全講座 あなたは絶対に事故を起こさないか?
P11-MPG日本記録更新、須藤彰の挑戦	P12-新団体設立の動きについて	P13-よりよい組織をめざして [理事に聞く] 関谷暢人/理事会ダイジェスト
P14-県連だより 群馬県ハング・パラグライディング連盟	P15-県連ニュース	P16-委員会の動き
P17-@sky		



広大なフラットランドの南北に長い台地からテイクオフする。ブラジリアゴールは、台地の南西方向、約70km離れている。



「世界」と10タスクを競い合って

第14回ハンググライディング世界選手権ブラジル大会

2003年8月16日～30日
ブラジル ブラジリア



報告：チームリーダー 郷田 徹

開催地・気候

ブラジル内陸部の首都ブラジリア周辺、海拔1000mの広大なフラットランドを舞台に、24カ国111人の選手が、8月16日から30日まで、2週間にわたり10タスクを競い合いました。

ブラジリア周辺の気候はとても安定していて、湿度も低く非常に快適でした。また、宿泊場所がメインゴールの近くなので、従来の世界選手権のように回収等で夜遅くなることもなく、まさに世界選手権を行うにふさわしいエリアであったと思います。

昨年のプレ大会をはじめ十分な大会運営の経験を持つスタッフに、デニス・ペゲンが加わり、大会オーガナイズは大きな問題点もなく、とても素晴らしいものでした。



開会式会場に日本チーム勢揃い。

唯一、気象条件が最高とはいえなかったのが残念ですが、それでも193kmのタスクを含む10タスクをこなしたのですから文句は言えないでしょう。

日本チームは、昨年度も同じ場所でのブラジル選手権、プレ大会に参加。今年の代表チームも世界選手権が始まる2週間以上前に現地入りして本戦に臨むなど、過去に例を見ない準備をしました。グラウンドクルーは、私と高橋明さんが2台の車を動かし、それに加えて江本克廣さんのご厚意で回収などを手伝っていただきました。みんな経験豊富なので、回収でてこずることもなく、毎日淡々と競技が行われていきました。今にして思うと、淡々とした毎日にもう少し変化をつけてあげるのも私の仕事ではなかったかと、若干後悔しています。



安定した力を見せてくれた大門。

競技・戦術

対地高度1000～2500m、テイクオフ時間12時、スタート1時、サーマルの終了時刻が5時過ぎという条件の中、毎日異なったスタート方法&タスクが組み込まれました。タスクはショート(75km)～ロング(200km)までで、全部で50箇所以上あるターンポイントの中から、その日の組み合わせが選ばれ発表されます。

選手が選出したタスクコミティーにアドバイザー的な役割で地元選手が加わり、比較的良いバリエーションに富んだタスク設定ができていたと思います。

ただし、スタート方法は今回、ターンポイントへのエントリースタート、エグジットスタートの両方が行われ、毎回ターンポイントが変わるので、日によってはポジショニングが難しく、時間にこだわり低高度でスタートしたり、後のスタート時間にまわってしまうというようなこともありました。ただ上位30人前後は必ず最高の位置からスタートし、レースを優位に進めていたのは確かで、日本選手もスタートで失敗をすることがないように、もう少し経験を積んでいかなければいけないと感じました。特に、今回の条件下では中距離・渋めの展開にな



頭上のガーグル情報を送る郷田。



広い畑に次々と高速でゴールを。



首都中心地のゴールを高いビルが囲む。



レイジנגカーは首位から2位へ。

るとスタートの失敗が致命的になり、各国の選手を悩ませていました。

とはいえ、日本チームは毎日必ず誰かが最高の位置からスタートを切り、先頭集団に入り後方に情報を送りながら進むということは確実にできていました。いかに良いガーグルに入り選手個人のスピードを高め、その情報を共有するかがということがキーポイントだったように思います。

大会後半、どうしても国別で優勝したいブラジルチームの上位3選手が、残りの3選手のために独創的なコース取りで情報を送り続けましたが、残念ながら上手く機能せず、逆にオーストリアチーム他に上手く利用されたに過ぎませんでした。また、ある日、オーストラリアチームは全員最後のスタートタイムを選択し、1人しかゴールできないということがありました。

そういった意味では、チームフライト自体の質が問われており、機能しない局面も数多く出てきているのが、昨今のコ

ンペションでしょう。現在のGAP方式のスコアリングで失敗することなくコンスタントに高得点を上げていくためには、やはり

- 1) 最良のスタートを切る
 - 2) スピードのあるガーグルを利用する
 - 3) コース上で単独にならない
- の3点が大切だと思います。

マンフレッド・ルーマーのように本当に強い選手は、ここぞという時はガーグルを置き去りにしてどんどん前へ、または独創的なコースを飛び1000点をたたき出します。日本の各選手も、大門選手の900点台をはじめ最終日の鈴木選手の2位ゴールなど、実力的にトップグループに接近してきています。大会中、日本の選手に対する評価が、日々上がっていくのを感じました。

日本チームは最終的にスウェーデンを抜き、国別順位の一桁復帰を果たしました。ここから上の8カ国は、どの国をとっても強豪ばかりですが、今回はまだ上にいける手ごたえを感じました。更に上に

いくためには、選手ができる限り海外の主要な大会に出て現在のトップ30人くらいの集団の中で経験を積むこと、若くてフィジカルの強い選手の強化及びチーム入りなどを、現実的な問題として認識し、実行していかなければならないでしょう。

今回、長い期間中、日本チーム全選手が事故や怪我もなく、国別で前回の順位を大きく上回る成績を収めることができたこと、世界のトップレベルに伍して競える自信がついたことなど、とても大きな収穫だったと思います。

最後に、JHF、今回スポンサーになってくれた皆さん、ハングアイドのスタッフ、現地で地上クルーとして活躍してくれた皆さん、そしてインターネットなどを通じ日本から多大な応援をしていただいた皆さんに、心より感謝いたします。今後、この世界選手権での経験を生かして、日本のレベルをさらに世界に近づけるために頑張りたいと思います。



トップ10の選手たち。



国別1位、オーストリアチーム。

成績

[個人]

1位	RUHMER Manfred	オーストリア	8685点
2位	REISINGER Robert	オーストリア	8314点
3位	BOISSELIER Antoine	フランス	7887点
4位	NENE ROTOR Alvaro Sandoli	ブラジル	7881点
5位	SCHMITS Betinho	ブラジル	7856点
6位	GEHRMANN Guido	ドイツ	7761点
7位	GUILLEN Bruno	フランス	7480点
8位	COOMBER Kraig	オーストラリア	7372点
9位	SALDANHA Gustavo	ブラジル	7251点
10位	WARREN Curt	アメリカ	7156点
21位	大門 浩二		6719点
44位	鈴木 博司		5826点
54位	板垣 直樹		4981点

57位	平林 和行	4866点
67位	大沼 浩	4088点
77位	安東 正夫	3589点

[国別]

1位	オーストリア	24944点
2位	ブラジル	24405点
3位	フランス	23964点
4位	イタリア	22449点
5位	ドイツ	22259点
6位	オーストラリア	21806点
7位	イギリス	21714点
8位	アメリカ	20799点
9位	日本	18998点
10位	スウェーデン	18247点

更なる上をめざすために



安東 正夫

1996年を最後に海外で飛んでいなかったが、その間に、いわゆるキングポストレス機が開発され更に改良を重ねていった。それに伴い高速フライト、それも殆どのグライドを時速80km+で飛ぶことに驚きを覚えた。日本で飛んでいてもそんなこと(80km+)は稀にあるが、やはりコンディションがそこまで良い日は、残念ながらあまり無い。

いつもながら海外でのフライトは約束されたサーマルコンディションの下でしかたま行われるので、ウームと思うことが沢山あるのだ。経験を積む意味で、コンペパイロットが海外に出て行く必要をあらためて強く感じた。特に若い人達には、もっともっと経験して欲しい。しかし、日本にいても意識を高めることにより、そういった飛びも可能だと思う。私自身、今後、国内においても高速フライトの領域を更に広げて飛んでみたい。



板垣 直樹

今回特に感じたことは、僕や日本チームに必要なのは、長期にわたる競技に慣れる、そして今のルールとスピードに対応するということだ。ルールの変更後、生き残りゲームからスピード重視の競技になった。これに対応するには、集団で飛べる力を身につけ、集団の先頭を飛べる速さを持たねばならない。そのために機体コントロールや「上げ」の早さ等の技術も高める必要がある。

一日の競技の中で大切なのは、少ない勝負どころをいかに活かし、それ以外ではいかに我慢できるか。具体的には、多様化するスタート方式に対応し的確なポジション取りをできるようになることも今後の課題だ。

世界選手権を目指す皆さん、更に技術や精神力を高め、個人10位以内入賞、チーム5位以内という目標を持ち、次回のオーストラリアに挑みましょう。僕も頑張ります。



大沼 浩

世界選手権の前に行われたブラジルナショナルズにも参加し、1ヶ月間を超えるブラジル滞在でした。世界選手権が始まり、上手く飛べない辛さ、悔しさで毎日悩みましたが、終わってみれば大変素晴らしい経験ができたこ

とに感謝しています。グライドするコースの選択ミスやスピードコントロール緩急の調整ミスなど、数え切れないミスの繰り返しでした。そんなミスの繰り返しと反省によって精神状態も安定せず、滞空時間と大きな大会の参加経験の少なさを実感しました。

これから沢山の経験を積み、上手くできなかったことを忘れずに練習することがステップアップにつながると信じ、飛び続けます。



鈴木 博司

世界選手権の出場は今回で4回目となりましたが、海外での大会は1999年のイタリアの世界選手権以来4年ぶり、最近のグライダーの性能向上による更なる高速化についていけるか正直不安でした。結果は44位と満足できるものではありませんでしたが、最終日に2位に入るなど、自分の飛びさえできれば十分に上位に食い込むこともできると確信できました。チームとしても9位と、前回の14位を大きく上回り、ミスをせず自分たちの飛びができれば、さらに上位を狙えるとメンバー全員が感じていると思います。

次の世界選手権まであと1年あまりしかありませんが、是非出場し、個人・チームとも上位入賞できるよう努力していきたいと思っています。



大門 浩二

今回の世界選手権で結果を出すために、昨年のブラジルナショナルズとブレワールドに出場し、今年はウクライナで機体調整を行い、再びブラジルナショナルズでコンディションの把握と調整を行った。世界選手権では、自分の思っていた通りに飛べた日も、そうでない日もある。考えていた以上に

良かった日もある。運や不運もあっただろうが、この結果が、今回の世界選手権に対して自分がやってきたことの結果だと、素直に受け入れることができる。チームリーダーをはじめ、たくさんの応援、支援のおかげで、十分に競技に集中できたと思う。

これから先、更なる上を目指すにはこれまでのやり方では無理だと思う。もっともっとレースコンディションの経験を積み、気象判断やコース選択、タイミングなどの判断能力を高めたり、より強いリフトを判断して早く上昇し、グライダーの調整や操縦能力など、全ての一つ一つのことについて、より高いものを目指さなければならないことを痛感した。

今回、あるいはこれまでに自分が経験して得たものは、少しでも多くのパイロットにフィードバックしたいと思う。



平林 和行

今回の世界選手権、確実に世界との差は縮まっている中で、私個人がもう少し上位にいけない理由は、条件に対するバランス。今回のブラジル(世界全体で)は、タスク設定において日本国内ではなかなか行われないアゲンストレグが必ず入り、そこでの駆け引きに今回は負けたような気がします。

アゲンストでもフォローでも、行く!上げる! これ以外にもありますが、このバランスがまだ自分の中で確立されていないようです。

海外だけでなく、国内での競技においてレベルを上げるには、今回のようなタスクは条件的に日本に適しているの、タスク設定のレベルを上げて、あらゆる経験値を上げる。後はスピードへの更なる意識、その中での確実性。これは日頃の練習においても当てはまります。近くはなっただけ、細かなことでまだまだやることは沢山あります。

Campeonato Mundial de Voo Livre



三回連続、クラス1世界選手権を勝ち取ったマンフレッド。



友澤一成、有終の美。

第8回全日本学生PG選手権

2003年9月9日～12日

栃木県宇都宮市 スカイパーク宇都宮

報告：千葉大学 佐島 佳穂子 東京工業大学 小口 傑

9月9日からの4日間、スカイパーク宇都宮でパラグライディングの学生選手権が開催され、全国から1st(P証)クラス26人、2nd(NP証)クラス15人の選手とスタッフが参加した。

これまで、学選は毎年悪天候に阻まれており、今年も異常なほどの冷夏であったが、大会期間中は夏真っ盛りとも思えるほどの快晴。四日間まるまる成立し、学生の熱気とともに大きな盛り上がりを見せた。

9月9日(火)

晴れ、南東の風2～3m/s。

まず、ランディングでの受付を済ませた選手から、モノラックに乗ってテイクオフへ。朝から青空が広がり、選手たちの間には期待感とともに緊張感がひろがる。この日は、世界を舞台に活躍する日本の代表的選手の宮田さん、山下さん、城所さんが特別ゲストとして参加。豪華な顔ぶれを乗せたモノラックがテイクオフに到着すると、学生たちの間からは大きな歓声が上がった。

テイクオフでの開会式、村上選手による選手宣誓、競技説明を終え、ブリーフィング。午前中からソアラブルだったので、1stクラスからのスタートとなった。14.5kmタスクでスピードラン形式。焦らず沖のパイロンを取った4人がゴールし、筑波大の木下選手が46分で初日首位となった。続いての2ndクラスはデュレーションで、最も長く飛んだ福井県立大の大西選手は約2時間。両クラスとも熱い幕開けとなった。



選手ブリーフィングでタスクが発表される。



4本成立。選手もスタッフも頑張った。

9月10日(水)

晴れ、南東の風強め。

早朝はもやがかかると、テイクオフに着いた頃には強い日差しが降り注いでいた。この日はだんだん風が強くなる予報が出ており、1stは学生大会としては初のレーストゥゴール形式がとられる。タスク距離は14.5km。前日同様スタートは1stそして2ndの順。1stの各選手は積極的にパイロンを取りに行ったが、予報どおりの強風に阻まれてなかなかゴールに到達できない。前日トップの木下選手がゴールしたかには見えなかったが、残念ながらGPSセクターアウト。結局、サブランディングに下ろした選手が最高得点を取った。サブランディングまで届かずアウトする選手も多く、状況判断が勝負の分かれ目となった。

2ndは初日同様、デュレーション。みな滞空時間をのぼすが、強風にまかせて尾根の裏に流れてしまう選手が続出。無線で何度も注意が促されるが、どんどん風が強くなり、これ以上続けるのは危険とみなされ14:30にキャンセル。最長タイムは3時間だった。

9月11日(木)

晴れ、東の風。

曇りの予報に反して朝から晴れたものの東風(サイド)で、ブローの瞬間を見計らってのテイクオフ。1stは10.4kmのスピードラン。8人がゴールし、積雲の発達を読み切って17分でまわった中央大の小林選手が3日目のトップに。条件が渋い時間帯に出てリフライトを余儀なくされた選手もいた。



学生No.1をめざして、テイクオフ。



1stクラス表彰。左から2人目が友澤選手。

2ndはテイクオフの風に悩まされたが、ほぼ全員がテイクオフし、デュレーション最長タイムは約1時間。みな手強く飛んで点を稼いだ。

この日の夜はレセプションで、雨にも負けずに再び盛り上がった。

9月12日(金)

晴れ、南東の風。

大会最終日にふさわしい好条件となり、暑く日差しも強かった。1stはレーストゥゴール形式、11.4kmのパイロンレース。二十数機のグライダーがひとつのガーグルを組み、一斉にスタートする光景が見られた。上位を狙う選手はどこで勝負に出るかが勝敗の鍵となった。

それぞれの選手が健闘、おもしろいレースになった。結果は最後の最後まで予想できず、トップゴールの友澤選手は、勝利が解った瞬間こぶしを握りしめ、まわりの選手も表彰台に向かう姿に大きな拍手を送った。2位の山下選手との差は20点と僅差で、友澤選手は「学生生活の最後に有終の美を飾れてほんとうにうれしい。」と喜びを語った。

2ndはソアラブルな条件が続き、ランディングクローズまで飛び続ける選手が続出。長時間集中力を保って飛び続け、渋い条件でも粘り抜いた大西選手が勝利を手にした。

学生選手権8回目にして初の4本成立、長丁場ならではの駆け引きも楽しめ、中身の濃い大会となった。その反面、怪我人こそ出なかったものの、トラブルを起こしてしまった選手、安全意識の低い選手が目立ち、課題の残る大会でもあった。今後、学生連盟は学生フライヤーの技術向上だけでなく、安全意識の向上を目指して活動していきたい。

成績

[1st]	1位	友澤 一成	千葉県	日本大学	3409点
	2位	山下 広輔	東京都	武蔵工業大学	3391点
	3位	村上 亜希	東京都	中央大学	3052点
[2nd]	1位	大西 康彦	福井県	福井県立大学	
	2位	近藤 喜成	福島県	いわき明星大学	
	3位	小林 康雄	青森県	弘前大学	
[団体]	1位	EPQ(日本大学)			
	2位	AIOLOS(筑波大学)			
	3位	ZEPHYR(京都大学)			



ゲートオープンと同時に次々とテイクオフしていく。



ファーストパイロンへ向けて一斉に。



扇澤郁、掴み取った運と勝利。

2003年パラグライディング日本選手権 in 白馬

2003年9月19日～23日

長野県白馬村八方尾根スカイステージアルプ

日本海側に停滞していた寒冷前線は、太平洋高気圧の減衰とともに南下し雨をもたらした。前線通過後は晴れて北風になるのが常だが、追い打ちをかけるかのよう台風15号の通過。雨、雨、そして雨と続き、大会成立が危ぶまれた白馬八方尾根スカイステージアルプの日本選手権。残り2日間と追い込まれ、台風の影響が残る北風と天候回復の萌しである南風とのせめぎ合い。あと数時間天候の回復が遅ければ、「1本」選手権となるところだったが、2本の競技が成立した。

9月22日 タスク1 スピードラン
台風一過、雲ひとつない晴天に恵まれ

た長野県白馬村。青空をバックにそびえる白馬連峰は美しく雄大だ。台風の影響を受けて強めの北風がなかなかおさまらず、テイクオフでウェイティング。風の息が広がり始めた13:30を過ぎて20kmのスピードランが発表された。八方ゴンドラ山頂D0(1393m)をテイクオフし、八方尾根下にあるゴンドラ乗り場B0(779m)がデパーチャー。北尾根レストハウスB1(1214m)谷を渡り飯森リフト降り場B22(1230m)五竜ランディングA35(735m)47ゴンドラ山麓駅B0(815m)の約10kmの三角パイロンをこなしたあと、再び飯森、47を往復、そして5kmほど南下し、ガクモヶ原ゴール。

案の定、スピードランによるスタートの牽制と、思うように高度を稼げず、なかなかスタートを切らない。ショートタスクとはいえ、午後のスタートだ。早くスタートを切らなければ日照のタイムアップもある。そんな中、飛び出したのは1995年選手権者の柏倉。上がりは1300mピークとテイクオフレベル以下だが、沈下が少ないとの判断でフォーティセブンの尾根に向けて低い高度でグライドを始める。その姿を扇澤が追う。単独スタートを切った2人を只野、辻、宇治山、上山、川地らの集団が追う形でレースが始まった。北風が吹き込む白馬一帯は、北斜面につけばリフトはある。そのリフトを見越



日本では珍しい150km級タスクがスタート。



八方尾根テイクオフでのブリーフィング風景。



フライトの申告はすべてGPSで行われる。



タスク1のガクモヶ原ゴールに60名が到達。

して、低い高度ながらも確実にパイロンをクリアしていく柏倉と扇澤。両名がスタックしようものなら、後続の集団が呑み込もうと一段高い位置で待ちかまえる。序盤こそ上がりりが渋く風も強めだったが、レース後半にかけては風も穏やかになり、上がりも1500mを越えるようになる。

ワンミスがあれば逆転劇も考えられたが、タスクは20kmのショート。先行した2人の読みは的中し、スタートの順にゴールメイク。柏倉曰く「サーマルピークが1200mから1300mと思いの外上がり、スタートを切らざるをえなかった。サーマルは全体的に弱く、プラス1.5mくらい。しかも流されるので、ほとんど上げずに廻った」。

一方、扇澤は「テイクオフ前が渋かった。まず最初にD18を探りに行き、トップで柏倉がスタートを切った。そのサーマルと一緒に入り、先にガーグルが3本だったので、リフトがあるのを確信してそのままスタートを切った。柏倉が良いダミーになった。今日は上手くいったんじゃないかな」。

北風が懸念されたタスク1は、103人中60名がゴールする好タスクとなった。トップは37分の扇澤。続いて39分の只野、41分の川地。柏倉は先行のリスクを負いながらも44分で5位に食い込んだ。

9月23日 タスク2 レーストゥゴール 白馬一帯は晴天の南風、午後になれば高層の雲量が増すとこの予報で最終日は始まった。

勝者の条件は、テクニック、レースの読み、そして運。全てを掴んだ者が勝利を手にすることができる。運を掴むのも実力のウチなのだ。タスク2はまさにその運を掴み取ったものが生き残るサバイバルレースであった。

発表されたタスクは50.6km。八方兎テイクオフ(1589m)プレパイロンの八方山麓(A33)から、スタートは飯森リフト。再び八方に戻り、南約10kmに位置する佐野坂アンテナとテイクオフを2往復し、テイクオフ北にある白樺レストハウス、梅池ランディングがゴールのロングタスク。

全機が広げられた八方兎テイクオフは、ゲートオープンと同時に次々と選手を空へ送り出し、30分もするとカラになる。

レース序盤。スピード、レースの読み共にトップの只野、川地がレースを引く。ゴールレースは鼻差でも先に出ればいい。タスク1の結果から、トップに出るには兎にも角にも扇澤より先にゴールを切らなければならない。只野、川地、伊澤はトップを狙える圏内にいる。その後には柏倉、小幡、高木が800点台で続く。日本選手権は勝者以外に意味はない。皆の狙いはただひとつ、勝利だけなのだ。

ドラマは一度目の佐野坂で始まっていた。少しずつ雲量が増え、時折オーバーキャストしてしまう難しい状況下。慎重にレースを進めるトップ集団に、容赦なく篩いがかけられる。その中にはまさかの扇澤、宮田が含まれ、戦列から遅れることになる。

佐野坂をクリアし、トップでテイクオフへ戻ってきたのは、川地、只野、上山、高木を含めた集団。雲が時折空を覆うが、選手たちは少しでも先へと2度目の佐野坂へ向けて駒を進めていく。やがて白馬の山々は全て陰に入り、大気は沈黙し、完全にレースは終わったかに見えた。が、3機だけが生き残っていた。戦列から遅れをとったはずの扇澤、宮田、水沼だ。

ほんのわずかがカリと空いた雲の隙間から柔らかな日差しが八方尾根にふりそそぐ。小さなリフトで粘っていた扇澤と水沼はラスト

チャンスを掴み、テイクオフをトップアウトするまで高度を上げる。宮田も五竜前で高度15mを切りながらも上げ直しに成功しレースを続行。まさに勝利に対して最後まで諦めなかった者が掴み取った運といえよう。既に川地、上山、只野は佐野坂付近に降り、復活を遂げた3名を除くパイロットは皆レースを終えていた。

扇澤、宮田、水沼だけのレースが再び始まる。3名は合流しては離れ、また合流を繰り返して、2度目の佐野坂へ向けてゆっくりと進む。しかし、一度は窮地を脱したものの、午後の傾いた日差しは再びサーマルを生むことができず、復活の3名も佐野坂付近ヘランディングを余儀なくされる。

この日のトップは34kmの川地。続いて33.9kmの扇澤と上山、33.7kmの只野と宮田、33.5kmの水沼の順。2本合計で、タスク1ではトップタイムを叩き出し、タス



佐野坂アンテナからのトップリターンは只野正一郎。

ク2は起死回生の復活劇を見せた扇澤郁が二度目の日本選手権者となった。2位は只野正一郎。川地正孝は3位に終わった。

2本のタスクを終え日本選手権は無事に終了した。競技キャンセルが続く中でも、日本代表選手による世界選手権の報告会や自転車レースなど、参加者を飽きさせないオーガナイズ側の配慮があった。また、あいにくの天候であったが、パラグライダータンDEM体験会、熱気球体験会、ライブイベントと、訪れた観客を喜ばせるイベントがあり、会場には多くの笑顔があふれていた。天候に左右されてしまうパラグライディングだが、こういった細やかな配慮があればこそ大会の成功につながるのだから。(敬称略)

成績	
[総合]	1位 扇澤 郁 富山県 1997点
	2位 只野正一郎 兵庫県 1931点
	3位 川地 正孝 神奈川県 1873点
	4位 宮田 歩 茨城県 1754点
	5位 柏倉 剛 山形県 1703点
	6位 水沼 典子 栃木県 1673点
	7位 上山 太郎 大阪府 1651点
	8位 伊澤 光 東京都 1625点
	9位 酒井 節夫 秋田県 1588点
	10位 高木 弘志 愛媛県 1587点
[女子]	1位 水沼 典子 栃木県 1673点
	2位 増子 友美 東京都 1027点
	3位 谷村 淳子 千葉県 787点



左から水沼、柏倉、宮田、只野、扇澤、川地。



女子トップ3。左から増子、水沼、谷村。



板垣直樹、初代クラス5チャンプに。

リジットハンググライダー日本選手権 in Ibaraki 2003

2003年9月19日～23日

茨城県八郷町 エアパークCoo

真夏のような暑さの後ろに台風が控える9月19日、今春のパラグライディングワールドカップの舞台となったエアパークCooで、日本最初のリジットハンググライダー(クラス5)日本選手権が幕をあげた。

佐々木、粘り勝ち。

青空はあるが雲量が多く、遠くは白く霧っている。最高のコンディションとは言い難いけれど、まずは初日の競技成功をめざそうと組まれたタスクは、60.6kmのスピードラン。西テイクオフから山並に沿って北上、8km離れた雨引鉄塔が第1パイロン。そこから西の平野部に出て鬼怒川大橋パイロン、日本コンクリートパイロン(下館)をとって、山の麓に戻り真壁の城跡にゴール。雨引鉄塔5km圏内にエントリーした(入った)ところからスピードレースが始まる。

いつもはパラグライダーが並ぶ整備された芝生の斜面に、スッキリ美しい固定翼機.....数十機が翼を列ねたら、さぞや壮観だろう。それらが一つのガーグルで上昇していくのは素晴らしい眺めに違いない。来年にはそんな光景をぜひ見たいものだ。

パッとしない色の空にテイクオフした選手たちは、ほぼ一団となってジリジリ高度を上げる。雲量はいよいよ増して、苦しいコンディションだが粘りに粘る。し

かし、タイミング悪く空はすっかり曇ってしまった。山沿いにリフトを昇りつめた板垣、塩野、古坂、境、吉田が、これまでとばかりに平野へグライドを始め、ひたすら真直ぐ進んでいく。途中でリフトをひっかけることができれば、何とか鬼怒川大橋まで行けるのではと期待したが、5機は高度を使い果たして次々にランディングしてしまった。

一方、独自の選択をして5機と別れた佐々木は、山肌をなめるように往復しながら、板垣らのグライドを見ていた。自分の高度は先行5機とほとんど変わらず、前方のコンディションはよくない。それなら、もっといいタイミングを待とうと決断。1時間近くリッジにはりつき、グライドに移る好機を狙う。他の選手全員が降りた後、空が少し明るさを取り戻したところで、山を離れる。平野に出てからもリフトをていねいに拾い、20.6km地点まで引っ張った。先行組と同じくらいは飛べるだろうという感覚だったが、5機の先頭だった板垣の距離を1.3km上回り、記念すべき第1回選手権の初日首位を獲得。佐々木の粘り強い飛びに一同脱帽し、まずはタスク1を終了した。

板垣、勝利に独走。

20日、21日、22日は残念ながら台風のため競技できず、1本フライトのまま最終日を迎えた。長野県で同時に開かれてい



タスク1。スタンバイしてダミーの動きを見る板垣。

るパラグライディング日本選手権も22日だけ競技が成立との情報が入る。どちらも今日飛べて、日本選手権者が決まればいいが.....。しかし茨城の空はいまひとつ。晴れ間はあるものの雲量が多い。

コンディションをにらみ決定されたタスクは、53.1kmのスピードラン。霞ヶ浦を望む東テイクオフを出て、南側の筑波山麓駐車場から3km圏内イグジット(出る)スタート。テイクオフ北側の燕山鉄塔パイロンを経た後、初日同様、日本コンクリート、真壁城跡ゴール。

初日1位、佐々木の得点は118点。2位板垣は113点、3位塩野が93点。点差は僅か。「日本一の座」に誰がつくか、まだまだわからない。

どんより曇った空に飛び立った選手たちは、筑波山で高度を上げ、テイクオフ地点のほぼ真上でスタートを切った。山沿いに燕山鉄塔をとりに行き、そこで平野部に出るタイミングを窺う。青空が戻ってきたが、上がりは鈍い。皆が粘るなか、吉田が1機グライドを始めた。強い風を背負って距離をのばし、日本コンクリートをクリア。佐々木、板垣ら、山に残った



タスク2。境がテイクオフした。まずは右方向の筑波山で高度を稼ぐ。



クラス5直線飛行距離記録を持つ佐々木が飛び立つ。



選手権とも思えぬ和やかな雰囲気タスクを検討。

選手たちはなおも粘るが、状況はまったく好転せず。

最初にゴールした者がチャンピオンになる。しかしコンディションはよくない。選手の葛藤が眼に見えるようだ。

ついに板垣が「僕が出ないとどうしようもない」と心を決める。先頭をきってグライド、他選手を引っ張る形になった。

追われる立場の佐々木は「勝つためには皆と同じではいけない」と考え、条件の変化を見逃すまいと眼を凝らしながらジワリジワリと高度を稼ぐ。1000m近くになったところで山を離れ、西へ。途中かなり下がったが上げ直して日本コンクリートをとる。しかし遠回りのコースをとってしまい、37.6km地点にランディング。2本トップの勝利は成らなかった。

先行した板垣は固定翼ならではのスピードに乗って一人グイグイと前進し、パイロンをとる。そのまま勢いを保ってゴールしてほしかったが、コンディシ

ョンがそれを許さなかった。結果は39.1kmで、この日のトップ。793点を獲得して佐々木を凌駕、初代クラス5日本選手権の座を勝ち取った。

初めてのクラス5日本選手権は、こうして幕を閉じた。エントリー僅か11名の大会ではあったが、見る者はクラス5の高性能と幅広い可能性を実感することができたはずだ。

来年の日本選手権には、もっともっと多くのパイロットが参加し、さらにクラス5の実力を引き出してほしい。せっかくの高性能を眠らせておくのは、あまりに惜しいではないか。

来年6月にはオーストリアでクラス5世界選手権が、クラス2、クラス1女子の世界選手権とともに開催される。板垣をはじめとする日本選手の大いなる活躍を祈ろう。(文中敬称略)



入賞者たち。左から吉田、佐々木、板垣、境、塩野、古坂。

成 績	
1位	板垣 直樹 茨城県 916点
2位	佐々木弘道 千葉県 897点
3位	境 卓史 東京都 879点
4位	塩野 正光 栃木県 876点
5位	吉田 雅則 埼玉県 854点
6位	古坂 学俊 茨城県 688点

チャンピオン決定!!

「日本一」を勝ち取った3人からひとこと



扇澤 郁



水沼 典子



板垣 直樹

9月23日、ふたつの日本選手権が5日間の会期を終え幕を閉じた。長野県白馬村と茨城県八郷町、表彰台のてっぺんに立った3人に、選手権を振返って、また今後の競技への心意気などを、話してもらった。

パラグライディング日本選手権者 扇澤 郁(オウギサワ カオル)

2000年くらいから調子が上がり始め、そのうちまたタイトルを取れるかなと思っていました。

今回、只野正一郎が良い飛びをしていたので、本来なら正一郎かなと思ったのですが、結果は僕ということで。(笑)

タスク2は序盤に仕掛けて失敗しましたが、最後しびとく追いついたというだけです。タスク1のアドバンテージが大きかったかな。

一本一本ベストの飛びができればいいのですが、日本選手権のように長期間のレースになると、心理的な要素が多々ありますね。

若手でイイ飛びをしている連中もトップにいます。タスク2のような大きなタスクが組まれれば、国内のレベルも全体的に上がっていいと思います。

パラグライディング日本選手権女子優勝 水沼 典子(ミズヌマ ノリコ)

タスク1は自分のリズムに乗りきれず、思い通りのフライトができませんでした。ですから、タスク2では誰よりも楽しいフライトができるよう心がけました。

単独でフライトする状況が多いなかで、扇澤さんと合流して一緒に飛べたこと、またタンデムフライトからの声援を受けたこともあり、とても楽しいフライトができました。

終わってみれば日本選手権女子のタイトル。やっぱり嬉しいです。自分の飛びとサーマルの見切りを早くすること、楽しいフライトを意識した結果ですかね。国内でもまだまだ私より上位の人がいますので、もっともっと上を目指し、次の世界選手権に向けて結果を出していきたいと思います。

リジットハンググライダー日本選手権者 板垣 直樹(イタガキ ナオキ)

今回は気象条件が悪くなくて、誰が勝ってもおかしくない状況で、たまたま2本いいのが揃った僕が運良く優勝した、という感じです。

ゴールできるような好条件の大会だったら、それなりのタイムを出す自信があったので、コンディションがよければ、もっといい結果を残せたんじゃないかなと思っています。来年、今回のメンバーはもちろん、たくさん選手を集めて、もっといいタスクで、またチャンピオンになればいいですね。その前に、クラス1の日本選手権でも優勝して、グランドスラムを狙いたいところです。

クラス5のハンググライダーは、いま国内に100機以上あります。競技も含め、いろいろな意味でクラス5が盛り上がるといいですね。

足尾山のようにクラス5が多いエリアでは、今まで飛んでいなかった空域をみんなで開拓するなど、高い性能を生かして、エリアのポテンシャルを引き出しています。でも、クラス5が少ないところでは、まだまだ本来の実力が認められていないようです。クラス5はコントロールが楽なだけではなく、すごく性能がいいのだということを、競技を通じて多くの人にアピールしていきたいと思います。そのためにも、ひとりでも多くの選手に参加してもらいたいですね。クラス5機で飛ぶ人間のひとりとして、皆さんのご協力をお願いします。

あなたは絶対に事故を起こさないか？

事故がなくならない。

これまでに発生した数多の事故から、私たちは十分すぎるほどの教訓を得てきたはずだ。なのに同じ過ちをまた繰り返す。何度でもいうが、事故はあなたから多くを奪う。身体を自由を、時間を、お金を、仕事を、そして、ときには命までも。

今年は9月末までに5件の死亡事故が国内で起きている。……これを読んで、あなたはどう感じただろう。「悲しいことだが『遠い世界』のできごとだ」と思ったとしたら、それは大間違いだ。ハンググライディング・パラグライディングは、刻々と変化する自然のなかで楽しむもの。しかも空を飛ぶのだ。あなたが事故の当事者に「絶対にならない」という保証は、どこにもない。

初級者のなかには、びっくりした人もいよう。そんな危険なことを始めてしまったのか、と。そう、このスポーツは危ないのだ、あなたが「自分だけは絶対に大丈夫」と思いこんでいるなら。

誰でも怖い思いや痛い思いをするのはイヤに決まっている。自分が事故を起こすことによって、家族や友人、フライト仲間やインストラクターがどんなに心を痛めるかを考えたら尚更だ。

ならば、事故を起こさず、いついつまでも楽しく飛び続けるために何が大切か、想像力を総動員して考えよう。

学習に終わりはない。

いつも地上で生活している人間が鳥のように空を飛ぼうというのだから、これはたいへんなことだ。機体性能がよくなって簡単に滑空できるため、勘違いをしがちだが、人間は鳥のように本能で飛べるわけではない。生まれつき脳に組み込まれていないことをするからには、常に学習を続ける必要がある。

スクール段階では、ひとつひとつクリアしていくべき明確な課題があり、練習生は一人前のパイロットをめざして、離着陸や旋回の技術を身につけ、知識を吸収していく。

しかし、晴れてパイロット証を取った後はどうか。あなたが「これで技術も知識も十分」と考えているとしたら、それはかなり恥ずかしい間違いだ。技能証は車の運転免許証と同じ。その指定した範囲内で飛ぶ能力を持つと記しただけのもの。パイロット証を取っても、ひとりで飛ぶのに必要なレベルまで達したというだけのことなのだ。

安全に飛び続けるためには、一人前と認められてからも、練習生時代の何倍もステップアップの努力をしていかねばならない。飛ぶ度にコンディションは異なる。学習しても学習しても「終わり」はない。

安全のために新しい機材を使う。

グライダーやハーネスなど機材は進化している。飛行性能だけでなく安全性も向上している。機材はどんなに大切に扱っても経年劣化し、性能を新機材のそれに等しくすることもできない。ある程度使ったら買い替えるしかないのだ。しかし、フライト機材は安いものではない。景気低迷が続く現在、あなたが「遊び道具に大金はかけられないなあ」と思ったとしても無理はない。

物を大切に使うのは美德である。旧型機で誰よりもいい飛びをすれば、皆の賞賛を浴びる。しかし、それでも、やはり古すぎる機材には別れを告げるべきだ。メーカーの宣伝をするわけではないが、たまにしか飛ばない人は特に、安全性の高い新しいモデルを使って、自分自身の安全係数を高めるべきだろう。

井の中の蛙になってはいけない。

ベテランパイロットが注意すべきは、自分自身の経年劣化だ。体力を保つ努力をするはもちろん、常に新しい情報に目を向け、安全に関する意識を高めていかねばならない。かつてあなたがインストラクターに教わったことは、その当時の

技術や知識だ。様々な進歩に取り残されないよう、積極的に「外」に出て行こう。

大会は情報入手に最適の場だ。新機材の実物を見ることもできる。競技に参加する気がないなら、よそのエリアに飛びに行くだけでも学ぶことがあるはず。逆に、草大会などを開いて他エリアのパイロットを招き入れ、情報交換してもいい。

いつものエリアという井戸の中で一番を誇るのもいいだろう。しかし、大海を知らない古蛙になってはいけない。

自分の安全は自分で守る。

練習生だけでなくパイロットでも他人（教員やベテランパイロット）に頼りすぎる傾向が、強くなっているようだ。他の意見を謙虚に聞くのはいいことだが、まず、自分で判断する力を養わねばならない。

そのためには、やはり学習あるのみ。「マニュアル外」のことが起きた時でも冷静に対処できるように、新しい知識を仕入れ、飛行技術を磨く。機材が進歩した分、以前より短期間の練習で広範囲のフライトができるようになった。知識や技術が機体性能に追いつかないのでは、もったいないし、危険でもある。

ハンググライダー・パラグライダーは、一度離陸したら途中で止まれない。予想外の何かが起きて、ブレーキをかけてゆっくり考える暇はないし、誰も操縦を交代してくれない。空中で頼れるのは自分だけなのだ。このスポーツを楽しむ者は、決してそれを忘れてはいけない。

パラグライダーのスパイラルダイブ

最近、スパイラルの危険性について話されることが多い。それというのも、いくつかのパラグライダーは、急速でタイトなスパイラルに入れた場合、パイロットの操作なしでは通常の滑空状態に回復しないといわれるからだ。

雲の吸い上げから逃れるときなど、スパイラルは有効な降下方法だが、アクロパティックな操作方法であることに変わりはない。機体性能・特性を十分に把握したうえで、適切な指導を受け、どのようにスパイラルに入れ、また抜け出すのかを理解してからでなければ、実行してはならない。見よう見まねでやってみる前に、それがどんなに大きなりスクを伴う行為か、じっくり考えてみるべきだ。

たとえばDHV等の「お墨付き」のグライ

ダーでも、評価を鵜のみにするのは間違いだ。あなたがテストパイロットの誰も経験したことのないような超弩級の窮地に陥ったとしたら？ 誰が「絶対大丈夫」といえるだろう。自分の力不足をグライダーが補ってくれることはない。どんなスパイラルからも自動的に回復してくれると思てはいけない。

すでにスパイラルを何度も経験しているベテランパイロットでも、スパイラルに入るときは、状況次第でいつでも抜け出せるように飛ばねばならない。心身の調子によっては、ブラックアウト（脳に酸素が供給されず気を失う）の危険がある。「今まで大丈夫だったから今日も平気」と考えるのは、あまりに浅薄だ。不調を少しでも感じたら、絶対にスパイラルに入れてはならない。

MPG日本記録更新、須藤彰の挑戦。

8月4日16時すぎ、鳴門海峡が見える。しかし燃料を使い果たし、写真中央のゴルフ場コース外に着陸。



8月4日、真夏の陽射しが降り注ぐ四国でモーターパラグライダー(パワードパラグライダー)の無着陸直線距離飛行の日本記録が更新された。

愛媛県松山市重信町の重信町公園グラウンドから、徳島県鳴門市瀬戸町の鳴門カントリークラブまで、168.46km。この距離を5時間8分で翔破したのは、千葉県須藤彰さん。新記録樹立で立ち止まることなく「挑戦」を続けたいと語る須藤さんの眼には、何が映っているのだろうか。

公式日本記録の更新、おめでとうございます。いきなりですが、なぜ記録に挑戦するのですか。

須藤 飛んでいる皆さんに記録飛行のおもしろさを知らせたい、それから社会にスカイスポーツをアピールしたいから、ですね。ひとりで楽しむより、みんなで楽しみたい。じゃ、記録を作れば、それを超えることをひとつの目標に、皆さん頑張ってくれるんじゃないかな、と思って……最初はそういう気持ちでした。実際に動き始めてみたら、けっこうたいへんなんですよね。苦労して準備している時に頭に浮かんできたのが、社会にアピールするという。モーターパラグライダー(MPG)は、ただ楽しいだけでなく、社会にスカイスポーツの素晴らしさを伝える道具でもあるんですよ、飛んでいる皆さんに言いたい、と。

自信のほどは?

須藤 前回(2000年)146kmの記録を作った時に、燃料を30L積んで16°Cぐらいしか使わなかったんです。それで約3時間半飛べたんで、今回は「もっと行けるな」という確信がありました。しかし机上の計画どおりにはいかないのが、自然の力のすごいところです。燃料を使い切って5時間以上飛んで、168kmで終わっちゃった。計算どおりにうまくいかないことが、つくづくわかりました。それだけ自然条件に左右される「飛びもの」なんだと痛感したと同時に、条件を考えてどうにかすればもっと距離をのぼすチャンスがあるんじゃないかと思いました。

具体的にはどんな条件が揃えば……

須藤 世界記録などを出している人たちに聞くと、追い風を利用した飛行が大半なので、今回もそれを利用しようとしたのですが、あまり風がなくてそれほど助けにならなかった感じです。やはり夏場より冬場の方が、大気密度の濃さ、上空の風向きや強さにしても条件がいいし、そのへんをもっとよく勉強して利用すれば、もっと記録をのぼせると思います。

当然、次も狙うと。

須藤 今回の成功に甘んじてはいけないと思うんです。それに、僕が記録に挑戦を続けることによって、これをどんどん塗り替えるような新しいチャレンジが出てきてほしい。それを僕は期待したいですね、皆さんに。

地上クルーの支えは心強かったですね。

須藤 皆さんの協力があったからできたんだと本当に実感しています。今回は地元の千葉ではなく四国で飛びましたが、同じスカイスポーツを愛好している人にとっては、活動している地域が違うとか、関係ないんですね。ひとつの場所に集まれば皆仲間なんだという意識で、皆さん喜んで手伝ってくれたんです。まるで自分のことのように熱心に乗ってくれるのがよくわかって、情熱ある人が多いんだなと、すごく嬉しかったですね。

たいへんだったことは?

須藤 記録を正式なものにするには、決まりにきちんと沿った形にしなければなりません。いろいろな手続きもあるし、使用する機材の登録もしないといけない。空港関係とのやりとりもある。全部自分で手探り状態でやってみて、本当にたいへんでした。記録飛行のための手順がマニュアル化されていせんから。公式記録のほとんどは海外で出されているので、公認する航空協会でも慣れていなかったりして、もっと気軽に挑戦できるようにすれば、やってみようという人が増えるでしょう。今回、その道筋を少し作れたかなという気がします。もちろん、記録を狙う方がいたら、ノウハウを教えてください、協力したいとも思っています。

テレビや新聞などで報道され、かなり社会へのアピールができましたね。

須藤 千葉の通信社の方にチラっと話したら、全国規模のニュースになっちゃっ



8月6日には3000mへの到達時間と高度記録に挑戦。飛行前に機材準備をする。記録樹立は成らなかった。

て。そこが全国にニュースを配信していると知らなかったんで、驚きました。ちょうど高校野球ぐらいしかニュースがない時だったんで、いいタイミングだったんです。報道の反響が思ったより大きかったです。報道の反響が思ったより大きかったです。またビックリ。全国から僕の家へ「飛んでみたいんだけど教えてもらえませんか」とか「どこでやってるんですか」とか、連絡がたくさん来ました。まさに嬉しい悲鳴というか……

記録飛行では、特にどんなことが大切だと感じていますか。

須藤 自然条件に大きく左右されるので、気象状況をきちんと把握できるように、よく勉強しないと。それから、自分だけで飛ぶのではなく、サポートの人たちの協力があってはじめてできることなので、サポート状況も考えて挑戦の場所を設定したり、コースレイアウトを考えたりしないといけませんね。ただ「飛びたいからあのへんを飛ぶ」というのは無謀です。安全の確保を第一に考え、サポートもしやすい計画を立てるように努めないと。

僕が記録を作ったことが口火になって、皆さんに広がっていったらいいなと思って、スカイスポーツの動きを興味津々で見ているところです。とにかく、もっともっと盛り上げてほしいですよ。

須藤 彰(すとう あきら)

1990年、教えられる人もいない時代に独学でモーターパラグライディングを習得。95年、MPGで初の東京湾横断飛行。96年には大島-平塚間約70kmの洋上横断飛行に成功。2000年、千葉県で146km飛び無着陸長距離飛行の日本記録を作る。03年8月、日本記録を更新。JHF補助動力委員会委員。千葉県在住。



公式立会人の山崎勇光さん(左)と成功をかみしめる。山崎さんは離陸後ずっと須藤さんを追尾していた。

新団体設立の動きについて

JHF会長 朝日 和博

パラグライダーの輸入販売やスクールなどを営む事業者の一部の方々が、パラグライディング新団体を設立しようとしています。JHFはこの動きに反対し、ひとつの組織で力を合わせて活動すべく話し合いを持ちたいと、先方に申し出ましたが、10月3日時点で話し合いは実現していません。

この動きによって、当惑しているフライヤーの皆様も多いと思います。JHFは皆様がこれ以上混乱することのないよう、また不利益を被ることのないよう、精一杯努めていきます。皆様も今回の動きを冷静にとらえ、さまざまな角度から考えてみてください。

JHFはハンググライディング・パラグライディングの統括機関

JHFは、ハンググライディングを統括する国内唯一の機関として1982年に発足、活動を開始しました。1986年にはFAI（国際航空連盟）がパラグライディングをFAIスポーツと考えることに合意、パラグライダーはハンググライダーの一種であるとしました。JHFはこの決定を受け、以後、ハンググライディングとパラグライディングの組織として活動してきました。設立当初から財団法人日本航空協会の承認を得、1995年には、文部省（現文部科学省）より公益法人の認可を受け、社会的にも認知された社団法人となり、現在に至っています。

意見の違いを乗り越え 皆で力を合わせて進んできた

発足から20余年、JHFは常に「自由に飛び続けること」のために、紆余曲折を経ながらも、いろいろな考えを持つパラ・ハング愛好者が自主的に話し合い、方向を決定し、力を合わせて前進してきたのです。

フライヤーがひとつのまとまりの中で大いに議論し、切磋琢磨していくことは、愛好者減少が続く昨今、特に必要なことだと思います。いま組織が分裂したら、どんなメリットがあるのでしょうか。皆が一丸となるべきときに、分裂によってこのスポーツが被る損失は、はかり知れません。

また、同じ空域を飛んでいるパラグラ

ライダーとハンググライダーを別々の団体を取り仕切るとは、事故増加につながる恐れがあります。JHFと新団体、別々の技能証も混乱のもとです。一部の事業者が興す組織は「公平中立」を欠く心配もあると思います。

本当に望まれる連盟に JHFは変わろうとしている

新団体設立の動きに至ったことを考えると、JHFも反省すべき点があります。このスポーツの活性化、フライヤーへのサービス向上、事故撲滅などの課題に取り組んできたものの「めざましい成果」を上げていない部分があるからです。

しかし、JHFは確実に変わろうとしています。名実ともにフライヤーのための、そして社会に貢献する組織として、より充実した事業を行うために、前へ前へと目を向けています。活性化対策委員会をはじめ多くの方々のご意見を伺い、フライヤーが本当に望むことを考え、ひとつひとつ問題を解消していこうとしています。

定款を改正し 組織の体質改善をはかる

変わろうとしている事例をいくつか、ここにあげましょう。

定款の改正：業者の参画

現定款では、パラ・ハング関連会社の経営者や役員はJHFの理事になれません。しかし、このスポーツの発展に「業者」の皆様力を発揮してもらい、前述のように一丸となって前進するために、定款を改正し、関連事業の経営者や役員でも理事に就任（立候補）できる途をひらこうとしています（2004年3月のJHF総会で議案に上程の予定）。

定款の改正：連盟名称の変更

FAIの規定では、パラグライダーはハンググライダーの1クラスに定義されていますが、社会一般にパラグライディングが知られており、パラグライダーフライヤーからの要望も多いため、「パラグライディング」を連盟名に付け加える方向で動いています。

教員の再教育

教員技能証の更新時に、更新講習会へ

の参加を義務にし、教員のレベルアップをはかるようとしています。現在、実施方法について、JHF正会員・常設委員会委員の意見を収集しており、2004年春から義務化に向けて体制を整えていきます。

保険の充実

フライヤー会員は自動的に第三者損害賠償保険に加入になります。それとは別に、任意加入の傷害保険を、また、教員のための補償制度を準備中です。年内または2004年はじめ頃にスタートの予定でいます。

事業・予算の見直し

現在、来年度予算案を編成中ですが、以前より事業を整理し、安全関連事業を最重要とし、予算を配分する案を作っています。また、JHFの姿勢に同調する日本パラグライダー工業会から、普及・発展のための意見をいただき、事業・予算案編成の参考にしています。

情報提供

限られた予算で、より有効な広報を行う方法を協議しており、来年度から実施したいと考えています。現在もJHFホームページを充実させる努力を続けているところです。

以上、新団体設立の動きに対するJHFの考え、よりよく変わろうとするJHFの活動についてお知らせしました。

今後、フライヤーのための組織がどのような方向に進んで行くかを決めるのは、フライヤーの皆様ひとりひとりの判断と行動にかかっています。

皆様ひとりひとりのご賢察をお願い申し上げます。

2003年10月3日

経過（10月3日現在）

9月11日：

伝聞により新団体設立の動きを知り、設立発起人に「話し合い」を文書で申し出る。

9月19日：

「新団体参加願い」の配布を受けて、これに反対、抗議する内容証明文書を発行する。

9月25日：

話し合いの場に出席できないとの返信文書を受け取る。

9月26日：

再度、新団体発起人へ話し合いを求め、文書を発送する。

よりよい組織をめざして

理事に聞く[2]

常任理事 関谷 暢人



JHFの舵取り役である理事一人ひとりに、どんな組織をめざして活動しているのかを聞きます。第2回は、理事4期目、事務局専従の常任理事、関谷さん。補助動力委員会、安全性委員会(サブ)、広報出版部、国際技能記章事業、予算編成を担当。国際ハンググライディング委員会(CIVL)の日本代表委員でもあります。

専従理事としての主な仕事は？

まず理事会関係。開催の段取りをして、審議・協議の準備をし、決定事項を正会員やフライヤー会員に伝達します。会長代理として会計や業務の決済もします。年間計画に沿ってきちんと事業ができていくか確認して、滞りなく進むように気を配るのは大切な仕事です。また、対外的には、日本航空協会との様々な調整、文部科学省とのやりとり、体育協会への働きかけ、警察への対応などにあたります。また、事務局長とともにいろいろな問い合わせにお答えしています。

担当の国際技能記章については？

これは国際航空連盟(FAI)の事業で、日本航空協会(JAA)からJHFに移管され

たものです。パイロット技能証やIPPIカードは、持ち主がソロフライトできるという証ですが、国際技能記章は「50km飛んだ」とか「5時間滞空した」とか数字で飛行実績を証明します。もちろん世界共通です。

できれば来春にはJHFの検定会を開きたいと考えていて、いま準備中です。記章獲得の飛行で記録が出れば、それを公式の日本記録にすることも、JAAとコンセンサスがとれています。国際記章が皆さんのフライトの目標、一つの励みになればと思います。

来年度予算の編成は？

常任理事会(会長・副会長・常任理事)の一人として、予算・決算編成作業を進めています。予算・決算のたたき台は10月18日の理事会で協議し、12月9日理事会で審議した後、正会員の意見を出してもらい、2月11日理事会で再度審議して最終案にし、3月15日の総会に上程する予定です。

限られた予算をどのように振り分けるか、いつも頭を悩ませるのですが、今回は特に安全に関する事業を優先して予算を組もうとしています。また、本当に必要と

される連盟事業とは何なのかを見直しているところですよ。

関谷さんが考える連盟の課題は？

少し前までのJHF事務局は、会員証や技能証の発行など事務レベルのことで手一杯、他はボランティアに頼ることが多く、動きも鈍いという状態でしたが、最近はアクションが数段早くなりました。これから、更に頑張っってフライヤー会員へのサービスや社会へのアピールを、もっと積極的にやっていかなければなりません。

昨年、ドイツの連盟などを見てきましたが、安全対策や広報、渉外には専従スタッフが絶対に必要だと痛感しました。何もかもドイツに倣う気はないけれど、ボランティアでは、やはり限界があります。予算に限りがある以上、すぐに実現するのは難しいかもしれませんが、専門的な知識を持つ専従スタッフを事務局に置いて、次の段階にステップアップできるように変えていかなければなりません。

理事会 ダイジェスト

2003年度第3回JHF理事会

2003年8月26日(火)13時~17時 JHF事務局会議室 出席理事:朝日和博、荒井稔、伊賀隆一郎、下村孝一、関谷暢人、瀬戸口裕郎、宮田富由 出席監事:對馬和也 欠席監事:宮川雅博(出席理事7名で定足数を満たし成立) 議長:関谷暢人

審議事項1:連盟名称改訂、定款改正及び教員更新の新制度について

下記の事項について、正会員・常設委員会の委員から意見を集める(アンケート)ことになった。これを10月に回収し、来年の3月総会または6月総会に上程できるように進めていくことになった。

a. 定款改正

定款第13条(役員を選任)を改正し、ハンググライダー・パラグライダーの製造、輸入、販売、スクーリングなどをする会社の役員が、JHF役員選挙に立候補し選任される道を開く。

理由:文部科学省のガイドラインの枠内で、業界関係者の専門的な経験・知識を連盟活動に活かしてもらうため。

b. 教員更新の新制度

教員技能証の更新の際、更新講習会の受講を義務とすることが課題となっていた。また一方では、更新にあたっての教員の負担を軽減してほしいという要望も強かった。これらを総合的に考えて、新たに教員教習委員を設けてはどうかという提案。これが実現すれば、

各都道府県に教員教習委員を育成し、各県連盟で更新講習会を実施することができる。

c. 連盟名称の変更

ハンググライディングとは専門的には、ハング・パラ双方を意味する言葉だが、一般にはわかりにくく、以前からパラの名称も反映したものにすべきとの要望も強かった。諸外国でもハング&パラグライディングの名称が主流となっている状況を踏まえて、名称を変更する提案。

審議事項2:国際技能記章申請料の決定について

国際技能記章の申請料金を、銅章3,000円、銀章8,000円、金章10,000円、ダイヤモンド章各15,000円(人口ダイヤなら各5,000円)とすることに決定した。

協議事項1:JHF法人設立10周年記念事業の提案について

来年6月にJHFは社団法人となって10周年を迎える。そこで、6月の通常総会に合わせ略式の記念式典を計画することになった。これまでJHFに貢献されてきた方々への「宮原賞」授与も、同時に行うようにする。

協議事項2:JHF2004年度事業・予算の基本方針について

事業方針

1. これまで以上に事故対策に重点を置いた事業計画を作成する。
2. フライヤー、一般社会へのアピールを強化するために、広報出版関係を強化する。

予算方針

1. 事故対策費の予算を増強する。

2. 会員拡大のための、目玉となる予算枠を設ける。

3. シーリングを設けて一律削減し、重点的な予算配分を行う。

4. 各委員会事業の統合・効率化により予算削減する。

*以上協議されたことは、今後の理事会の審議事項となり、具体的に決定される。

2003年度第4回JHF理事会

2003年9月25日(木)13時~17時 JHF事務局会議室 出席理事:朝日和博、荒井稔、下村孝一、関谷暢人、宮田富由 欠席理事:瀬戸口裕郎、伊賀隆一郎 欠席監事:宮川雅博、對馬和也(出席理事5名で定足数を満たし成立) 議長:関谷暢人

審議事項1:11月教員検定会の延期について

日程が迫っているにもかかわらず教習検定委員会からの報告がない。教習検定委員である小野寺氏・半谷氏・谷田氏がパラグライダー新団体の発起人に名を連ねており、教員検定会がスムーズに実施できない可能性がある。そのため11月に実施予定だった教員検定会を延期することになった。日程を組み直し、年度内に開催する。

協議事項1:日本パラグライダー協会設立に対する対応について

JHFとしては、あくまで分裂を避けるため、新団体設立の発起人に話し合いを求めていくことになった。また、これまでの経過を、正会員、スクール、教員に詳細に報告し、意見を求めること(アンケート)で全員了承した。

県
連
だ
よ
り



フライヤーが望むことを考えて。

群馬県ハング・パラグライディング連盟
事務局長 佐藤 満

安全講習会に多数の参加

6月22日(日)群馬県利根郡片品村丸沼高原ゴンドラエリアで、群馬県ハング・パラグライディング連盟安全講習会を、丸沼高原エム・バースパラグライダーズクールのご協力を得て、開催いたしました。

この講習会は、当連盟の正会員や群馬

県内のエリアでフライトしている一般フライヤーを対象にしたものです。講師は、3月のJHF主催の指導者講習会に参加しました当連盟の理事長、伊尾木氏と、同じく前理事長の田部井氏。JHF講習会で実施された内容を、一般フライヤーにフィードバックすることを目的として行いました。

当日はお天気にも恵まれ、30名もの参加をいただきました。まず午前中はパラグライダー体験用の緩やかな斜面を使用し、安全なイクオフトランディングの方法の実地講習を、全員に数回ずつトライしていただきました。そしてその様子をビデオに撮り、実地終了後の午後には、そのビデオを見ながらの座学。フライト・指導経験ともに豊富な伊尾木理事長の的確なアドバイスや興味ある話に、質問も多く、一日めいっぱいの講習にもかかわらず、参加者全員、熱心に、そして楽しく受講していただきました。

群馬県連としては毎年、当県連の会員さんを対象に親睦フライト会などを開催してまいりましたが、それほどの参加者がありませんでした。そのような中、今年これだけの参加をいただいたということで、フライヤーの求める方向が少しは実感できた思いです。

連盟・スクール活動維持のために

最近、経済状況の悪化に伴って、県内のスクールにやって来るパラグライダー体験のお客様や、エリアにフライトに来るフライヤーの数も減少しているようです。ただこれはパラグライダー界に限らず、スキー・スノーボード・ダイビングや、一時かなりの人気があったラフティングなどのアウトドアレジャー業界は同様の動きのようです。

連盟関係者、そしてスクール関係者はフライヤーやお客様がどのようなことを望んでいるのかをしっかりと分析していかないと、連盟活動そしてスクール活動も維持していくのが難しくなるのではないかと切に考えさせられる次第です。

我々の元締めであるJHFは、全国のフライヤーの知恵が集まり、緩やかではあっても、時と共に柔軟にそのシステムを対応させ育て上げて来た組織ではないかと思えます。たまたまある時代に突出した者がいたとしても、それはせいぜい長くて10年。やはり50年・100年先のスカイスポーツ界を見据え、今後もフライヤーのためのJHF活動を期待いたします。

群馬県連盟へのご連絡は
県連事務局

TEL.0278-58-4840 FAX.0278-58-4840
E-mail:ghf@h9.dion.ne.jp



写真3点とも安全講習会を行った丸沼高原ゴンドラエリア。

県連ニュース

埼玉県ハング・パラグライディング連盟 [埼玉県連盟助成プログラムスタート]

今年度も当連盟では、県連会員のための助成プログラムを開始しました。これはフライトエリアの協力を得て、県連会員のフライト及び会員相互の親睦を目的としたプログラムで、協力エリアにフライトに行った時に会員への優遇をさせていただくものです。協力エリアは埼玉県内の三ヶ所。スカイラブエリア「彩の国こまちパラグライダーズスクール」_、仙元山エリア「アホウドリクラブ」_、長瀬エリア「長瀬パラグライダークラブ」です。

助成プログラム

彩の国こまちパラグライダーズスクール

TEL.0493 - 67 - 1788

- ・31番号(埼玉県在住フライヤー登録証所持者)提示者には、ビジターフライト通常料金3500円を1500円に。
- ・埼玉県連盟会員証提示者にシャトル券を2枚プレゼント。

仙元山 アホウドリクラブ

TEL.090 - 1695 - 489(関根)

- ・ビジターフライト料金を1000円割引
- ・月例会(第一日曜日のバーベキューパーティー)無料招待

長瀬パラグライダークラブ

TEL.090 - 3576 - 416(塩野)

- ・31番号(同上)提示者には、エリア近くの農協直売所での飲食・物品購入に対して500円の補助。

助成期間は10月1日開始とし、エリア毎の県連助成予算がなくなり次第終了とさせていただきます。

各エリアとも予約等の必要はありませんが、事前にエリアの風の状態、コンディション等を問い合わせることをお勧めします。詳細は各エリアまたはエリア管理者にお問い合わせください。

[記:事務局 塩野富士夫]

神奈川県ハング・パラグライディング連盟 [パラグライダー体験会に延べ284名]

前号でお知らせした「全国アウトドア・マリンスポーツフェスタin神奈川PG体験会」を9月7日・10月5日の両日、こどもの国(横浜市)の牧草地で行いました。好天に恵まれ、2日間で延べ284名の参加者と76名のスタッフが参加。盛況な体験会となりました。ご協力いただいた皆様に県連役員一同深く感謝いたします。

大人の参加者には各自立ち上げとグラハンを、子供たちにはサポート付きのミニミニフライトを体験してもらいました。体験会からスクールへ通い始める人もおり、当連盟では今後もボトムを構成する普及活動として、このような体験会を実施してまいります。[記:荒井 稔]

石川県フライヤー連盟

[今夏一番の条件で仮装フライト]

8月2日・3日、獅子吼高原で、パラグライダーによる仮装フライトコンテスト「獅子吼高原スカイフェスタ2003」が行われました。当日は、開会式会場上空をハンググライダー4機編隊によるオープニングフライトを皮切りに、パラグライダーの仮装フライトがスタート。この日のコンディションはこの夏一番、海風も入ってきて、大きく重い仮装もガンガン上昇していく状況。見学者はいつもと違う仮装パラグライダーを十分見ることができ、皆さん満足顔でした。

10月3日～5日には、同じく獅子吼高原でハンググライダーの全国大会「22thデサントバードマンカップ2003」が開催されます。この日には、800年の歴史を持つ鶴来町「ほうらい祭り」があり、日中は大会、夜はウエルカム・パーティー＆祭り、参加パイロットやスタッフにとっては充実の秋のハンググライダー大会になりそうです。[記:広報担当 倉 和彦]



いい笑顔の入賞者たち。

兵庫県フライヤー連盟

[スカイスポーツフェスティバルのお礼]

2003年10月18・19日にさのう高原で当連盟主催のスカイスポーツフェスティバルを開催しました。フェスティバル運営のお手伝い及びご参加ありがとうございました。

今回は、兵庫県国体のプレイベントとして、東八チ・八チ高原ならびに八チ北高原を中心に開催の予定です。内容につきましては、競技を中心にフリーフライト等、各種のイベントを行います。

[記:理事 西谷]

徳島県ハンググライディング連盟

[県連イベントの報告・お知らせ]

7月27日 パラグライダー勝浦大会がベリーショートタスクで成立しました。

8月3日 海部川清流祭りPG大会が実施されました。

8月3～4日 吉野川フライインが実施されました。

11月3日 徳島県連パラグライダー体験会を吉野川グラウンドで実施の予定です。

各大会の詳細・最新情報は、当連盟ホームページをご覧ください。

<http://www.alles.or.jp/mukumoto/thf/>

[記:野田克彦]



パラグライダー勝浦大会に参加の皆さん。

福岡県ハング・パラグライディング連盟

[矢岳高原ブルースカイフェスタ報告]

8月24日、宮崎県えびの市・矢岳高原において、今年で13回目を迎える「矢岳高原ブルースカイフェスタ」が開催された。この大会は夏の恒例行事として開催されてきたが、ここ3年は連続して台風の影響などで不成立になっていた。その鬱憤を晴らすかのように今年には絶好のコンディションに恵まれた。

当日は九州各地はもとより、遠くは大阪から50名を超える選手が集まった。開会式終了後からダミーの上がりも良く、10時にゲートオープン。タスクは7.5km離れたEゴールへの「ゴール・レース」_、昼過ぎに一時、中弛みがあったものの、ソアラブルなコンディションは終日続き、19名の選手がEゴールまで到達した。結果、スピード勝負となり、20分を切る好タイムをたたき出した福岡県・耳納の森山選手が優勝を飾った。

[総合]

- | | | |
|----|-------|-------------|
| 1位 | 森山 武美 | フライング耳納 |
| 2位 | 小川 勝良 | FWフラップスズ |
| 3位 | 前川 克哉 | クラブ99 |
| 4位 | 高橋 剛 | 日向PGCとんび |
| 5位 | 野村 和弘 | ウインドラブ |
| 6位 | 角町 正彦 | 空豆 |
| 7位 | 鶴丸 敬明 | 佐賀フライヤーズクラブ |
| 8位 | 越智 善治 | 飛遊人 |

[女子]

- | | | |
|----|-------|---------|
| 1位 | 山下 園加 | ミノウ |
| 2位 | 坂田 佳織 | スカイクルーズ |
| 3位 | 西原 美鈴 | フライング耳納 |

[記:越智善治]



絶好のコンディションでスピードレース。

委員会の動き

安全性委員会

9月16日、東京都文京区シビックセンターで、機材リサイクルについてのセミナーと委員会を開きました。

1. FAIの概要について阿部委員長より説明があり、新たに環境に対する委員会ができた旨説明があった。
2. ポリエステル繊維のリサイクルについて、帝人ファイバー(株)の森下氏から最新技術の説明があった。
3. 事故報告について、秋田、静岡、九州については調査継続中。
4. 過去事故報告の基本データベースができ上がり、運用し、データを揃えていく。
5. 事故調査報告書の閲覧要望については、JHF事務局内で可能。ただし、コピー持ち出しはできないものとする。
6. PG日本選手権に向けての機体登録審査が終了した。
7. 活性化対策委員会からの答申への回答説明があり、中間報告があった。

[記:幸路尚文委員]

制度委員会

現在、定款検討委員会のメンバーとして活動しております。この委員会で審議した内容を正会員にご検討いただいているところです。より良いJHFを築き上げるためにも、各都道府県連盟で活発な議論をお願いいたします。

委員長の愚痴

この委員会は定員が5名なのに、たった2名でもう4年が経とうとしています。全国のフライヤーの皆さん、だれかいませんか。 [記:小林秀彰委員長]

ハンググライディング競技委員会

秋も深まりそろそろ紅葉の季節ですが、皆様はいかがお過ごしですか。このレポートが配布される頃には、以下の大会が終了しています。

1. リジットハングライダー日本選手権 in Ibaraki 2003
 2. 22ndデサントバードマンカップ2003
 3. 2003HG日本選手権 in Ibaraki
- 結果はホームページにて随時発表していきますので楽しみに!

ハンググライディングシリーズの2004年度の受付を始めました。どしどし登録してください。各大会で現地登録も受け付けています。

当委員会の情報はホームページでお知らせしています。また、事務局にメールをくだされば競技委員会インフォメーションをお送りします。

HG競技委員会事務局

E-mail:haku@effect-jp.net

http://jhf.skysports.or.jp/HG/

[記:日下部はく委員長]

パラグライディング競技委員会

この原稿執筆時には、長野県白馬で日本選手権大会が開催されており、競技委員会から陪審員を2名(松原、曾我部)派遣しています。3年連続で成立している日本選手権が今年も無事成立することを願っています。また日本選手権の会期中に、来年度に向けて競技委員会を開催しルール上の細かな詰めを行っています。

ジャパンリーグ大会は、世界選手権から戻ってきているトップ選手達が出場しています。これらの選手は世界のトップとして非常にレベルの高いレースを行っています。海外の大会に出る機会に恵まれなくとも、こうした選手達と戦うことが皆さんのレベルアップにも繋がります。そうしたことを意識しながらフライトしてください。

秋の大会が天候に恵まれ、成立してゆくことを願っています。

[記:曾我部真人委員長]

補助動力委員会

今期(平成14・15年度)を振り返りますと、実にさまざまな活動を猛スピードでこなしてまいりました。まずMPGパイロット技能証規程の設置があります。それに伴う大規模な移行認定事業と、MPG教員検定に相当する研修会の実施です。

一方では手に負えなかった活動もあります。現在、モーターハング・パラの現況

は、「多くの矛盾」と「統一性を欠いた状態」にあることを承知しています。今期もまた、フライトモラルの広報(MPGフライト手帳の発行)、MHG学科問題集の発行等に手が回らず、その点については深く反省しております。

今期最後の活動として「MPGメーリングリストの設立」を達成します。既にこの記事が発行される時点では設置を完了していることと思います。昨今の情報伝達システムにのっとり、委員会ホームページ「MPG Today」サーバ内に、MPGパイロットを主体としたメーリングリストを構築する構想です。メーリングリストはご存知のように、登録者の1人がメールを送信すると、すべての登録者にその内容が同時配信される仕組みです。補助動力委員会の広報にとって、欠かすことのできない可能性を感じ、MPG技能証体系が分離独立した当初からの構想です。

来年度は常設委員会改選の時期にあたり、補助動力委員会も新しいメンバーを迎え新たな活動を開始します。永年活動され本年度をもってお辞めになる方もおられます。来期は伝統あるJHF補助動力委員へ、立候補される方が多数あることを望みます。

補助動力委員会正委員の定数はわずか5名ですが、その活動は多岐にわたります。従って理事会の選考から漏れた方がいても、補助動力委員会は「その有志」を活かすため「専門委員」として活動して頂けるよう、慎んで理事会へご推薦申し上げます。是非ご参画くださるようお願いいたします。 [記:山崎勇光委員長]

常設委員会の委員・広報出版部のスタッフを募集します。

JHFには専門的な事業を担う常設委員会・特別委員会があり、2004年3月31日に任期満了による委員改選を迎えます。そこで、委員としてハング・パラグライディングの普及発展に力を貸して下さる方を募集します。また、合わせて広報出版部のスタッフも募集します。好きなスポーツのために頑張りたい方、ぜひ立候補してください。

パラグライディング競技委員会

世界選手権参加選手の選抜、日本選手権への公式審判員の派遣、公認大会の審査、競技ルール改定等を行う。

ハンググライディング競技委員会

世界選手権参加選手の選抜、日本選手権への公式審判員の派遣、公認大会の審査、競技ルール改定等を行う。

教習検定委員会

教員・助教員の育成、検定等を行う。

補助動力委員会

補助動力全般に関わる業務を行う。

制度委員会

JHF規程、制度の検討等を行う。

安全性委員会

ハング・パラグライディングの安全に関わる業務を行う。機体登録の審査、事故調査、事故統計調査等を行う。

法務委員会

法令、法学等に関わる業務を行う。

選挙管理委員会

JHF役員選挙に関わる全業務を行う。

広報出版部

会員、社会への情報提供を主に行う。

立候補の締切り:1月9日(金)

理事会で委員選出:2月11日(水)

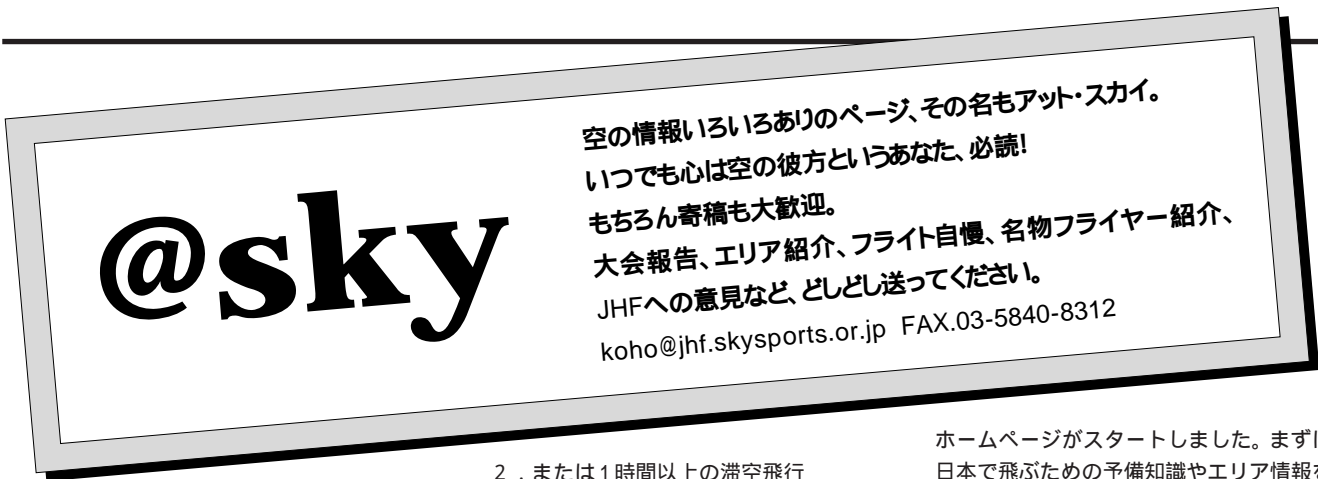
総会で新任委員報告:3月15日(月)

立候補の方法:

JHF委員公募用紙に必要事項を記入しJHF事務局宛に郵送してください。公募用紙はJHFホームページからダウンロードするか、JHF事務局より入手してください。

来期委員の任期:

今回募集する委員の任期は、2004年4月1日から2006年3月31日までです。



NEWS

国際技能記章 JHFが発行します。
 国際航空連盟（FAI）が制定する「国際技能記章」を知っていますか。これは、全世界共通の技能証明で、日本ではJHFが発行します。JHF技能証やIPPIカードとは異なり、課題の飛行を行ったことを証明するものです。課題をクリアしたと認められた人には、一人ひとりの番号が付与された記章（ピンバッジ）が発行され、永久にその記録が保存されます。もっと飛行技術を磨きたいというあなた、ぜひバッジ獲得に挑戦してください。

この課題飛行を行うときは、国際技能記章検定員（現在は全国に約100名）の立会いと、バログラフ（自記高度計）による飛行記録が必要です。また使用するバログラフの検定登録など、事前の手続きもありますのでご注意ください。お問合せはJHF事務局まで。また、レポート次号に記事を掲載する予定です。

記章取得条件（課題） ハンググライディング

- ・FAI 国際デルタ銅章
 1. 15km以上の距離飛行
 2. または1時間以上の滞空飛行
 3. または500m以上の獲得高度飛行
- ・FAI 国際デルタ銀章
 1. 50km以上の距離飛行
 2. および1000m以上の獲得高度飛行
 3. および5時間以上の滞空飛行
- ・FAI 国際デルタ金章
 1. 300km以上の距離飛行
 2. および200km以上の目的地往復距離飛行または三角コース距離飛行
- ・FAI 国際デルタ・ダイヤモンド章（次の3種の各ダイヤモンド章とする）
 1. ダイヤモンド距離：500km以上の距離飛行
 2. ダイヤモンド目的地距離：400km以上の目的地距離飛行
 3. ダイヤモンド・クロズド・コース：300km以上の目的地往復距離飛行または三角コース距離飛行

パラグライディング

- ・FAI 国際イーグル銅章
 1. 15km以上の距離飛行

- 2. または1時間以上の滞空飛行
 - 3. または500m以上の獲得高度飛行
 - ・FAI 国際イーグル銀章
 1. 50km以上の距離飛行
 2. および5時間以上の滞空飛行
 3. および1000m以上の獲得高度飛行
 - ・FAI 国際イーグル金章
 1. 100km以上の距離飛行
 2. および5時間以上の滞空飛行
 3. および2000m以上の獲得高度飛行
 - ・FAI 国際イーグル・ダイヤモンド章（次の2種の各ダイヤモンド章とする）
 1. ダイヤモンド距離：200km以上の距離飛行
 2. ダイヤモンド獲得高度：3000m以上の獲得高度飛行
- 申請料など
 バログラフ型式登録料：3,000円
 * 日本航空協会の事業
 バログラフ個別登録料：1,000円
 * 上記と同時の場合は免除
 飛行証明：1,000円
 HG/PG 銅章申請料：3,000円
 HG/PG 銀章申請料：8,000円
 HG/PG 金章申請料：10,000円
 HG/PG ダイヤモンド章申請料：15,000円
 * 各章ごと 人工ダイヤは5,000円

JHF ホームページ 英語版スタート。
 海外の人や日本在住の日本語を話さない人にもJHFの情報を提供するための英語版

ホームページがスタートしました。まずは日本で飛ぶための予備知識やエリア情報を掲載。観光案内サイトにもリンクしています。JHFホームページのトップページ右上にある[ENGLISH]を選んでください。
 JHFホームページはFAIのホームページにもリンクされており、海外からのアクセスも増えていくでしょう。JHF広報出版部では、英語版をもっと充実させること、他の言語でのページも立ち上げることを計画しています（次はハングルバージョンに着手）。翻訳や情報収集・整理を手伝ってくださる方をただいま募集中。飛行経験等は問いません。JHF事務局までお気軽にご連絡ください。

2002年 JHF 活動実績 頒布します。
 2002年版の「ハンググライディング・パラグライディング JHF活動実績」ができました。JHFの活動内容、フライヤー登録や技能証発行の数、選手権の結果等を掲載した『白書』です。
 A4サイズ、78ページ。送料込みの頒布価格500円。ご希望の方は、JHF事務局にお申し込みください。

JHF ホームページ
<http://jhf.skysports.or.jp/>
 JHF 事務局
 TEL.03-5840-8311 FAX.03-5840-8312
 （電話は月～金曜日の9:30～17:30に）
 E-mail:jhf@skysports.or.jp

安全性委員会（JHSC）型式登録機

輸入パラグライダー 2003年9月16日登録			
PI-878	HISPO式 EDEL LIVE S型	DHV 1-2GH	飛行重量75～95kg NP証
PI-879	HISPO式 EDEL LIVE M型	DHV 1-2GH	飛行重量80～105kg NP証
PI-880	HISPO式 EDEL LIVE L型	DHV 1-2GH	飛行重量100～125kg NP証
PI-881	OZONE式VALCAN S型	DHV 2GH	飛行重量65～85kg P証
PI-882	OZONE式VALCAN L型	DHV 2GH	飛行重量95～115kg P証
PI-883	OZONE式VALCAN XL型	DHV 2GH	飛行重量110～135kg P証
PI-884	AIRWAVE式Magic 3-S型	DHV 2-3GH	飛行重量65～85kg P証
PI-885	AIRWAVE式Magic 3-M型	DHV 2-3GH	飛行重量80～105kg P証
PI-886	AIRWAVE式Magic 3-L型	DHV 2-3GH	飛行重量100～125kg P証
PI-887	Gin GLIDER式Boomerang S型	SHV COMPETITION	飛行重量75～95kg P証
PI-888	Gin GLIDER式Boomerang M型	SHV COMPETITION	飛行重量90～110kg P証
PI-889	Gin GLIDER式Boomerang L型	SHV COMPETITION	飛行重量105～125kg P証
PI-890	NOVA式RADON L型	DHV 2-3GH	飛行重量100～130kg P証
PI-891	NOVA式AERON M型	DHV 2GH	飛行重量90～110kg P証
PI-892	FLYING PLANET式Whisper S型	AFNOR PERFORMANCE	飛行重量65～82kg P証
PI-893	GRADIENT式BLISS 24型	SHV PERFORMANCE	飛行重量70～85kg P証
輸入パラグライダー 2003年9月17日新規登録			
PI-894	FIREBIRD式Honet SP S型	DHV 2GH	飛行重量65～85kg P証
PI-895	FIREBIRD式Honet SP M型	DHV 2GH	飛行重量80～105kg P証

*最新登録・プロタイプ登録はJHFホームページ・安全性委員会のページをご覧ください。



大会報告

第13回猪苗代パラグライダーカップ03
8月2日・3日

福島県耶麻郡猪苗代町 猪苗代PGエリア

[総合]

- 1位 村本 倫子 千葉県 1137点
- 2位 鴛田喜代隆 神奈川県 1045点
- 3位 伊藤 義明 神奈川県 793点
- 4位 寺木 新一 福島県 758点
- 5位 桜井 俊秀 宮城県 732点
- 6位 吉原 薫 栃木県 683点
- 7位 塚原 隆信 千葉県 642点
- 8位 吉原 紀子 栃木県 615点

初日、予報より早めに風向きが変わり、10名がソアリングするも他の選手はぶっ飛び状態になりタイムは全く伸びず、先にテイクオフした者が上位を占めた。地元選手はほとんど自滅。

2日目、予報が西風になり早めのゲートオープン。地元の選手は一発逆転をかけての牽制状態。他の選手は早めのテイクオフで高得点を獲得した村本選手が、初日3位からの大捲りで見ごと優勝した。

[報告: 山口幸雄]

福井県選手権

8月10日

福井県 スキージャム勝山

[総合]

- 1位 黒田 義裕 福井県
- 2位 春山 永一 福井県
- 3位 二上 中 福井県
- 4位 松田 善行 福井県
- 5位 熊野 誠文 福井県
- 6位 山下 繁樹 福井県
- 7位 清水 崇宏 福井県
- 8位 宮下 雅道 福井県

台風一過の好天の下、正午よりゲートオープン。13kmのタスクを8名の選手がフライト。徐々に発達してくる雲に、雲底が低くなり日射が遮られサーマルが弱くなった時間帯もあり、思うように進めない選手がいるなか、黒田選手が34分でトップゴールした。

[報告: 高田昌平]

渥美半島横断レース

8月16日・17日

愛知県豊橋市高塚町 JPM高塚エリア

大会両日とも雨天のため残念ながら中止としました。

[報告: 森下英樹]

2003尾神岳

Paraglider Student Championship

8月21日・22日

新潟県中頸城郡吉川町 尾神岳エリア

[1st]

- 1位 及川 了 弘前大学 1000.0点
- 2位 寺尾 有貴 東京電気大学 826.6点
- 3位 小林 泰 中央大学 650.1点
- 4位 間辺 恭平 日本大学 625.5点
- 5位 木下 悟 筑波大学 618.5点
- 6位 山下 広輔 武蔵工業大学 578.9点
- 7位 村上 亜季 中央大学 441.6点
- 8位 生神 美佳 弘前大学 173.3点

[2nd]

- 1位 佐藤 昭平 明治学院大学 1588.2点
- 2位 おとめ陽平 大阪大学 1529.1点
- 3位 笠井 智子 筑波大学 1346.5点
- 4位 吉田 昌史 筑波大学 1161.3点

大会初日、午前中は雨がぱらついていましたが、時間がたつにつれ晴れ間がさし、真夏のコンディションとなった。1stクラスは10.3kmのタスクが組まれ、ほとんどの選手がゴールを決めた。2ndクラスは、佐藤君とおとめ君との熱い戦いとなり、わずか3分差で佐藤君に軍配が上がった。

2日目は条件が悪く、1stクラスではミニマムをクリアした選手が無く不成立。2ndは吸い上げて粘った笠井君が1位に輝いた。

[報告: 石毛龍介]

カレンダー

☒は開催地、☒は連絡先です。予定は変更になる場合がありますので、お出かけの際は事前に必ずご確認ください。

新人戦2003(学生 HG・PG)

10月25日・26日 ☒山形県南陽スカイパーク

(十分一山) ☒石橋里江子

TEL:090-6018-9549

E-mail:misatorieko@hotmail.com

尾神岳スカイグランプリ(PG)

10月25日・26日 ☒新潟県尾神岳

☒〒949-3443新潟県中頸城郡吉川町下町

1126 吉川町役場産業課

TEL.0255-48-2311

平和カップ2003in広島(HG・PG)

11月1日~3日 ☒広島県神の倉山、荒谷山

☒HG:中川大志 TEL:0824-21-8734

E-mail:nakagawa.tai@mazda.co.jp

☒PG:〒731-0138広島県広島市安佐南区

祇園1-36-13大石ビル 広島市ハンググライ

ディング連盟

TEL.082-875-8737 TEL.090-2294-9537

FAX:082-830-1672

E-mail:kojima@csys.hiroshima.cu.ac.jp

URL:http://kannokura.dip.jp/peacecup2003/

しらたかジャパンカップ(PG)

11月1日~3日 ☒山形県白鷹スカイパーク

☒トントンとんび TEL.023-672-6206

E-mail:tontontonbi@muj.biglobe.ne.jp

西日本学生HG選手権大会 in 神の倉

11月22日~24日 ☒広島県神の倉、荒谷山

フライトエリア ☒林田拓己

TEL.090-7394-9408

E-mail:skylab_1025@hotmail.com

四国三郎ジャパンカップ(PG)

11月22日~24日 ☒徳島県美馬町三頭山

☒〒790-0915愛媛県松山市松末1-10-29

スカイスポーツCOSMOS

TEL.089-975-4766

E-mail:cosmos@infomadonna.ne.jp

第9回スカイスポーツシンポジウム

12月6~7日 ☒日本大学理工学部(駿河台

校舎 東京都千代田区神田駿河台1-18)

(社)日本航空宇宙学会主催 JHFほか協賛

*誰でも参加可。参加費は一般1000円、大

学生500円、高校生以下は無料。詳細はホ

ームページで。

http://www.jsass.or.jp/web/

schedule/sky_9.htm

第15回丹沢スカイグランプリ

ハンググライディング大会

ハンググライディングシリーズ対象

JHFスクール登録 [新規登録]

No.113 エアウイングパワードパラグライダースクール MPG

http://www7.ocn.ne.jp/airwing/

〒350-0143 埼玉県比企郡川島町出丸中郷2040 TEL.&FAX.049-297-9009

11月

MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
					1	2
3 文化の日	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23 地方選挙の日
24 振替休日	25	26	27	28	29	30

12月

MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23 天皇誕生日	24	25	26	27	28
29	30	31				

フレキシブル・リジッドクラス

総合およびチーム戦

2004年1月10日~13日 ☒神奈川県秦野市

横野・菩提地区(丹沢エリア)

☒山本剛 TEL:044-813-0127

E-mail:yamamoto@mf.0038.net

最新情報はJHFのホームページでご覧ください。http://jhf.skysports.or.jp/

ファイターの向こうに

4

込山 茂

飛行中にスナップ撮影して、後日その被写体となった方に撮影した写真を渡す。皆さんも少なからず経験されていることだと思います。どんな写真であれ、自分が被写体となっている写真をもらうことは嬉しくもあり、ちょっと気恥ずかしいもの、だと思えます。

フライヤーならば、1枚や2枚はそうして得た写真を家や職場に飾っているのではないのでしょうか。かくいう私も例に漏れずその口で、部屋や職場に写真を飾り、見る度にその時のフライトを鮮明に思い出します。最近はデジカメが増えてきているので、パソコンの壁紙にされている方も多いのでは。モニタに向かってニンマリしてませんか？

さて、今回被写体として登場頂くのは、ホームエリアの丹沢、松田で良くご一緒させていただいている多賀さんです。空とグライダーしか写っていない写真ですが、撮影は夏の定番、長野エリア、樽池でのフライト時の一コマです。ランディング手前の尾根上空で高度を稼ぎ、岩岳へと向かう間、翼端を擦り合わせればかりに接近したり、互

いに写真を取り合いながら進んでいきました。この日は雲底はさほど高くはなかったのですが、移動には十分な高度が取れ、八方、五竜と周遊できた楽しい一日でした。

ホームエリアでのフライトでも多賀さんとは絡んで飛ぶことが少なくなく、これまでに多く被写体になっていただきました。この写真の撮影時もそうですが、撮影していることを解ってもらえると撮る側はすごく楽なのです(このシリーズ最初に登場いただいた松永さんの時もそうでした)。安定した状態の中でのトランジットだったので尚更でした。自分のグライダーを入れた構図にすることも落ち着いてできました。

多賀さんが被写体になる時は大抵の場合、私も被写体になっています。実はこの時に撮ってもらった写真は、職場を飾る一枚になっているのです。カメラを持って飛ぶことはとても楽しいのですが、自分では飛行中の自身の姿を写すことができない悩みがあります。自分の写真を撮れないだけに、もらったときの嬉しさは格別なのです。



込山 茂(こみやま しげる)

毎週末、天気さえ良ければ丹沢や松田、その他飛べるエリアに出没するパラジャンキー。コンベには出ないサンデーフライヤーだがXCフライトは100Kmオーバーも記録する。飛び始めて16年以上経過。

学連だよ!全員集合!!

寒い日が続くようになってきましたが、皆さんどのように過ごしていますか? 飛べれば寒さなんて関係ない? さっすがです! まだまだ年内にイベントもあるのでぜひぜひ参加してみてくださいね!

[11・12月のイベント]

- 西日本学生HG選手権IN神の倉
11月22日~24日 神の倉・荒谷山エリア
中国学連冬合宿
- 12月13・14日 神の倉・荒谷山エリア

そんなわけで、第2回目の地区学連の紹介は中国学連に担当してもらいます。

地区学連紹介

こんにちは!中国学連です。中国学連は主に山口大・山口県立大のSKY DUSTと広島大ハングのTAKEOFF MANIA、パラのTeamPsで活動しています。

山口は、夏は海が見渡せる大島、冬は高照寺エリアで飛んでいます。広島は神の倉・荒谷山で飛んでいます。大学が少ないこともあって、イベントや大会の度に集まるので、かなりフレンドリーな雰囲気ですよ。特に山口の人はイベントになると燃える人が多い

ので、毎回すごく盛り上がっています。

そして今年の冬はなんと、11月に西学選、12月に中国学連冬合宿が、いずれも神の倉エリアで開かれることになりました! あらゆる風向に対応しているフライト確率の高いエリアなので、ぜひぜひお越しください! 去年同様、広島名産の新鮮なブリブリのカキをたくさん用意してお待ちしております。“うちのエリアは冬は無理だから...”と諦めているあなた、このチャンスを活かさない手はありません! まあ、いっぺん来てみんさい! 中国学連はいつでもあなたをお待ちしております。

夏のイベント

もうすっかり寒くなってしまいました。今年の夏も様々な場所で合宿や大会が開かれ、例年に負けない盛り上がりを見せました。ここでは主に8月に開かれた「中国学連夏合宿in大島~ちっちゃいけど大島よろしくのんた~」の報告をしてもらいます。

*

夏が来た。今年は他の大会とかぶってしまっただけ、さみしい合宿になるかと予想していたが、各地から驚くほどたくさん

の方が来てくださった。合宿は3日間ずっと天気に恵まれ、朝から海に入る人、昼間は飛び飛び、夜は海辺でBBQ...恒例のイベント(?)もはじまり、美しい星空なんてお構いなしのフライヤーたちであった...暑く、そして熱くみんなで楽しんだ夏合宿。来年もよろしくのんた!!

*

また、今年はおぶくまエリアで、おぶくま洞開設30周年ということもあって、初めての東日本HG学生選手権が開催されました。スケジュールが合わなくて参加できなかった人もいたかと思いますが、大会もレセプションも盛り上がり、楽しく終わることができたようです。来年の夏も今年同様たくさんの方のイベントをやるので、多くの人の参加を待ってまーす!

学連への連絡は.....

「学連に加盟したい!」や「もっともっと学連のことを知りたい!」などといった学連への意見や応援メッセージはこちらまで。

林田拓己(広島大学3年)

e-mail:skylab_1025@hotmail.com



空のかお
その52

小村 幸史さん
(こむら しょうじ)



会社を卒業するにあたり、未体験のことに挑戦したいと思い、パラグライダーを始めました。危ないからやめたらと周囲の忠告もありましたが、リスクがあるから更に克服しようと努力していますし、難しいから面白いです。はじめは体力的にも苦労が多かったのですが、上達するに伴ってコツがわかってきました。毎日のようにグランドハンドリング練習をし、今ではグライダーが体の一部と思えるほどになってきました。

ホームエリアは長野県須坂市の妙徳山と菅平高原ですが、P証も手に入れたので、ワールドカップの行われたエアパークCooや温泉も楽しめる伊豆方面のエリア、富士山の見える朝霧高原エリアも行ってみたいと考えています。また、アルプスの美しい国々でのフライトも体験したいものです。

飛び始めるため基礎体力作りをしていたので、現在は体脂肪及び体重も減り快適な状態です。健康管理面からもフライトの継続がMustになっています。若さは年齢ではなく精神力。常に目標を掲げ前進することが大切です。「やればできる」「継続は力」をモットーに今後も努力していきます。

連絡ノート
JHF
フライヤー

年末年始は業務を休みます

JHF事務局は、2003年12月27日(土)から2004年1月4日(日)まで、業務を休みます。お問い合わせや技能証の申請等は早めに済ませてくださるようお願いいたします。

各種申請・注文用紙はHPから

JHFへの各種申請用紙及び注文用紙は、ホームページ(事務局からのお知らせ/各種申請・注文用紙)から入手できます。ぜひご利用ください。但し、フライヤー会員申込書、技能証申請用紙だけは、お手数ですが同じくホームページから注文用紙を入手して、JHF事務局にオリジナルの用紙をご注文ください。

教員・助教員技能証の更新

JHF教員・助教員技能証の更新の時期になりました。該当する方には必要書類をお送りしますので、年内に手続きを済ませてください。

フライヤー会員証が届かない場合

フライヤー登録の更新の際、会費を振り込んでから2週間以内にお手元に会員証が郵送されない場合は、できるだけ早く事務局にご連絡ください。

制度委員募集中

JHF常設委員会のひとつ、制度委員会の委員を募集しています。現在同委員会はたった2人で活動中。ぜひ、あなたの力を貸してください。任期は2004年3月31日まで。ご連絡は事務局をお願いします。

氏名・住所等が変わったら

お名前やご住所が変わったら、すぐ事務局にお知らせください。ご連絡がないと、JHFレポートをお届けできません。変更はJHFホームページからもできますので、ご利用ください。

登録更新はコンビニ送金もできます

フライヤー会員登録更新時の会費振り込みは、コンビニエンスストアまたは郵便局で。ただし、住所等の変更がある場合は、郵便局からお振り込みください。コンビニでは変更の受け付けができません。

JHF事務局

TEL.03-5840-8311 FAX.03-5840-8312
(電話は月～金曜日の9:30～17:30に)
E-mail:jhf@skysports.or.jp

レポート&HPにご意見を

JHFレポートやJHFホームページへのご意見・ご要望を事務局広報出版部にお寄せください。もちろん、JHF全体へのご意見も大歓迎です。

FAX.03-5840-8312
E-mail:koho@jhf.skysports.or.jp

8月・9月のパイロット証取得者

(敬称略 数字は認定日)

パラグライディング

8/1 河毛 早苗
8/1 高浜 晴美
8/1 中嶋 康男
8/1 三原 俊也
8/1 石井 本男
8/1 小林 くみ
8/1 藤倉こずえ
8/1 長崎 光司
8/1 西村 信昭
8/1 中尾小百合
8/1 平緒 正壽
8/4 楢原 崇伴
8/4 佐々木康夫
8/4 宮本 好之
8/4 矢田 真之
8/4 木村 舎人
8/4 清澤 厚巳
8/4 森 真子
8/6 西尾 宏治
8/6 福田 隼士
8/6 浦野福次郎

8/8 野口 勝也
8/8 石毛 龍介
8/12 中山 茂
8/12 長沼 誠一
8/18 棚沢 善昭
8/18 高橋 光要
8/18 四方 陽明
8/20 鶴岡 智
8/20 澤田 健
8/20 池澤タカオ
8/21 亀田 通
8/21 井達 博美
8/27 横内 努
8/27 杉原 幸代
8/27 河合 利広
8/27 住吉 唯史
8/27 内山 美紀
8/27 生神 美佳
8/27 田沢千鶴子
8/27 小島 美香
8/27 塚原 幸雄

8/29 五島 淳
8/29 米澤 実
8/29 古山 正明
8/29 木村 正仁
8/29 三浦 高夫
8/29 井口 剛志
8/29 印南 学
8/29 今村 壮一
8/29 盛田 正明
8/29 菊池 義行
8/29 大滝 義信
8/29 田村 行雄
9/2 川島 原理
9/2 伊藤 善規
9/2 安田 俊広
9/2 宮本 伸生
9/2 阿部 浩昭
9/2 南澤 宏和
9/2 高橋 俊勝
9/2 Aフォルデン セリオ
9/3 貴島 弘一

9/3 栗島紀久子
9/3 清水 志郎
9/3 齋藤千恵子
9/3 小村 幸史
9/5 志比田聡子
9/5 岩田 明美
9/5 山本 良文
9/9 鴨 忠司
9/9 平川 忠司
9/9 城ヶ崎良文
9/10 平野 定司
9/12 鈴木 淳
9/12 柳沼 崇志
9/12 江刺ひろ子
9/12 鈴木 誠司
9/12 柿本 満博
9/17 辻 克己
9/17 横 秀樹
9/19 蓬萊 美里
9/19 峰岸 栄一
9/24 梶 幸基

9/24 小浦 義一
9/24 埴和 茂
9/24 真原 隆治
9/24 木村 利子
9/25 浅井 国広
9/25 渡辺 朋紀
9/26 垂水 伸輔
9/30 渡邊 笑久
9/30 北村 太郎
9/30 工藤 大輔
9/30 石田 千夏
9/30 菊地 勝彦

ハンググライディング

8/6 田中 清治
8/8 桜井 昇
9/1 田中 元氣
9/25 磯 千栄子

9月30日までのフライヤー会員登録数

登録年数	7月31日現在の有効登録数	8月の登録数	9月の登録数	9月30日現在の有効登録数
1年		719	803	
3年		514	503	
合計	19,060	1,233	1306	18,732

8月・9月の技能証発行数 ()内の数字は発行数中の女性の人数です。

技能証種類	ハンググライディング			パラグライディング			
	8月の発行数	9月の発行数	9月30日までの発行数累計	技能証種類	8月の発行数	9月の発行数	9月30日までの発行数累計
A証	5(1)	18(3)	12,313	A証	173(47)	142(43)	48,936
B証	6(1)	15(3)	11,880	B証	101(35)	70(19)	43,673
C証	4(0)	8(0)	7,139	NP証	75(17)	57(19)	11,482
P証	2(0)	2(1)	5,064	P証	54(12)	42(9)	20,496
補助動力証	1(0)	0	32	補助動力証	0	0	867
XC証	0	4(1)	1,224	XC証	17(3)	15(3)	4,321
タンデム証	2(0)	0	52	タンデム証	12(0)	14(3)	903
モーターパラグライディング							
				P証	1(0)	16(2)	241

編集を終えて

夏が終わりました。冷夏とはいえ、やはり夏は暑いもの。様々な大会が各地で行われ、多くの選手が熱い戦いを繰り広げました。季節は変わりましたが、夏同様熱いフライトを！くれぐれも事故には気をつけて。JHF広報出版部 小崎一貴

JHF ホームページもご覧ください。

<http://jhf.skysports.or.jp/>

i-MODE(NTT DoCoMo) <http://jhf.skysports.or.jp/mobil/i/index.html>
J-SKY(J-PHONE) <http://jhf.skysports.or.jp/mobil/j/index.html>
EZweb(au DIGITAL au cdmaOne,TU-KA) <http://www.d2.dion.ne.jp/haku/jhf/ez/index.wml>

JHFレポート11・12月号(No.180)

発行日 2003年10月20日 定価10円
発行 社団法人 日本ハンググライディング連盟
〒112-0003 東京都文京区春日2-24-11春日Shimaビル8階
TEL.03-5840-8311 FAX.03-5840-8312
E-mail: jhf@skysports.or.jp
編集 JHF事務局広報出版部
印刷 日本印刷(株)

この印刷物は再生紙を使用しています。